

# Sustainability Report

丸善製薬 サステナビリティレポート

# 2024

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

# 目次

目次	02	1.組織統治	21	5.公正な事業慣行	55
編集方針	03	1) コーポレートガバナンス	22	1) 腐敗行為の防止	56
企業情報	03	2) コンプライアンス	23	2) 持続可能な調達	58
沿革	04	3) リスクマネジメント	24	3) サプライチェーンマネジメント	60
トップメッセージ	05	2.人権	26	4) 財産権の尊重	61
企業理念	06	1) 人権の尊重	27	6.消費者課題	62
PURPOSE(丸善製薬の存在意義)	06	2) ダイバーシティ&インクルージョン	30	1) 品質保証	63
経営理念	07	3.労働慣行	35	2) 製品開発	64
経営ビジョン	07	1) ワークライフバランス	36	3) 製品情報へのアクセス	69
社是	07	2) 労働安全衛生	39	7.コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	70
丸善製薬のサステナビリティ	08	3) 人材育成	42	1) コミュニティへの参加	71
サステナビリティ基本方針	09	4.環境	44	2) 社会的投資	73
国連グローバル・コンパクトへの賛同	09	1) 環境マネジメント	45		
企業倫理方針・行動規範	10	2) エネルギー消費と温室効果ガス	47		
人権方針	12	3) 水	50		
環境方針	13	4) 廃棄物	52		
持続可能な調達方針	13	5) 生物多様性	54		
サプライヤー行動規範	14				
品質方針	15				
SDGs宣言	16				
マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の特定	17				
サステナビリティ情報プラットフォーム	19				
サステナビリティ・CSR意識の浸透	20				

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 編集方針

丸善製薬は、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして「サステナビリティレポート2024」を作成しています。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを行い、継続的に説明責任を果たしてまいります。

### 対象期間

2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日）の活動を中心に、一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

### 発行時期

2024年7月（日本語版）

### 参考にしたガイドライン等

本レポートは、ISO26000（社会的責任に対する手引）、GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード、国連グローバル・コンパクト10原則などを参考にしています。

### サステナビリティ情報プラットフォーム

Sedex (Supplier Ethical Data Exchange)  
EcoVadis  
CDP



## 企業情報

商号	丸善製薬株式会社
創業	1938年（昭和13年）9月5日
法人設立	1949年（昭和24年）7月13日
資本金	9,800万円
売上高	161.1億円／2024年（令和6年）3月期
従業員数	450名（臨時雇用者25名含む）／2024年3月31日時点
事業内容	医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売
本社・本社工場	広島県尾道市向東町14703-10
新尾道工場	広島県尾道市美ノ郷町本郷字新本郷1-140
三次工場	広島県三次市南畑敷町870-32
久井ファーム	広島県三原市久井町苅原壺本松10645-15
総合研究所	広島県福山市新市町相方1089-8
東京支店	東京都渋谷区恵比寿西2-6-7
大阪支店	大阪市中央区道修町2-6-6塩野日生ビル6階
関連会社	ロンジェブ株式会社、丸善貿易（上海）有限公司

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 沿革

1938年(昭和13年)	日暮喜八が丸善商会を創立、食品調味用甘草(カンゾウ)エキスの製造を開始	1992年(平成4年)	丸善化成株式会社と丸善製薬株式会社が対等合併し新社名を丸善製薬株式会社とする
1949年(昭和24年)	組織変更し丸善化成株式会社を設立	1992年(平成4年)	会長に日暮兵士郎、社長に日暮彰文が就任
1958年(昭和33年)	医薬品製造業の許可を取得し生産を開始	1995年(平成7年)	三次工場の第二期工事で工場を増設
1958年(昭和33年)	丸善商事株式会社を設立(昭和60年ロンジェブ株式会社に改称)	2000年(平成12年)	広島県立新市工業団地内に総合研究所(第一期工事)を建設
1963年(昭和38年)	丸善製薬株式会社を設立	2001年(平成13年)	総合研究所の第二期工事で研究所を増設
1971年(昭和46年)	会長に日暮喜八、社長に日暮兵士郎が就任	2005年(平成17年)	尾道流通団地内に新尾道工場を建設
1978年(昭和53年)	ステビオサイド製剤の生産販売を開始	2007年(平成19年)	会長に日暮淳子、社長に井元勝恵が就任
1979年(昭和54年)	化粧品製造業の許可を取得	2007年(平成19年)	中華人民共和国に丸善貿易(上海)有限公司を設立
1980年(昭和55年)	医薬部外品製造業の許可を取得	2007年(平成19年)	三原市に久井ファームを開設
1983年(昭和58年)	界面活性剤(キラヤニン)、生薬抽出液(センブリ、アロエ他)等の生産販売を開始	2011年(平成23年)	三次工場(第三製造棟)を増設
1983年(昭和58年)	健康食品(牡蠣エキス、霊芝エキス)の生産販売を開始	2013年(平成25年)	新尾道工場(第二製造棟)を増設
1985年(昭和60年)	広島県立三次工業団地内に三次工場(第一期工事)を建設	2017年(平成29年)	社長に日暮泰広が就任
1989年(平成元年)	オーストラリアに自社農場取得、ループラン有限会社を設立(現在は閉鎖)	2017年(平成29年)	新尾道工場(第三製造棟)を増設
		2021年(令和3年)	三次工場(第四製造棟)を増設

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## トップメッセージ

私たち丸善製薬は、法令遵守を基本として、お客様の目線に立ち、安全性の高い機能性成分を追究し、人に優しく世の中に役立つ事業の継続と地球環境の保全に努めてまいりました。

2019年には、創立70周年の節目を迎え、世界が直面する環境および社会問題に対する企業の関わりや課題解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、行動規範を策定して取り組みを開始しております。

そして2024年に創立75周年を迎えるにあたり、社業の源泉である社員の人権を尊重し、それぞれが互いの個性を認め合い、働きたいことができ、且つ安全・安心な環境を整えることが経営の根幹だと考え「社員の幸福を通じ社会貢献」を、どのような時代にあっても変わらない「丸善製薬のありたい姿」と位置付けています。束ねた力を開花させることで社会に美と健康をつないでいけるよう、全社員取り組んでまいります。

丸善製薬のタグライン「自然の恵みをつなぐ」の中にある「自然の恵み」については、原料となる植物だけではなく事業活動において必要不可欠な各種エネルギーも「自然の恵み」であると捉えています。原料となる植物の調達に当たっては事業の継続性のみならず種の保存の観点からも現地での栽培指導などの様々な施策を取っており、また、エネルギーを必要とする工場の操業に当たっても地球温暖化ガス排出量の低減や太陽光発電の導入等、地球環境に多面的に配慮しながら持続可能な事業活動に努めております。

お取引先様や社員の皆様、また地球環境等との様々な「つながり」を大切に社会への責任を果たすべく、この行動規範に掲げている項目について「こうありがたい」と願う様々な夢や課題に対して真摯に取り組むことが、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへの貢献につながり、ひいては創立100周年にもつながっていくものと考えております。

丸善製薬「企業倫理方針・行動規範」

<https://www.maruzenpcy.co.jp/inc/pdf/company/philosophy/conduct.pdf>



代表取締役社長

# 日暮泰広

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# 企業理念

## PURPOSE

(丸善製薬の存在意義)

自然の恵みをつなぎ  
人々が美しく健康でいられる社会(づくり)に貢献します

### 笑顔のあふれる社会へ

瀬戸内、しまなみ海道の起点となる尾道市。優しいおだやかな海に囲まれた土地に丸善製薬は誕生しました。そんな地域社会との関わりが環境面、文化面などあらゆる観点から、企業活動を育んできました。

創業時からこれまでの間、私たちは提案型の営業に徹してまいりました。オリジナリティ溢れる発想で、あらゆる分野で甘草の応用を徹底的に試みるというのが原点でした。常に独創的な企業経営を心がけ、一貫して自然界の有用植物を中心に、そのものが持つ機能性成分にこだわり続けています。

私たちは、あくまでも抽出の技術に研鑽を重ね続けてきた結果が、今日の企業の開発テーマやニーズに呼応していたのだと考えています。

丸善製薬をもっといい会社になりたいという願い、自分は今こうしたいと考えているといった率直な願いが、会社の姿になっていくと考えています。

これまで築いてきた丸善製薬の歴史を明日へと紡ぐべく、新しい技術を培い、知恵を養い、誠実に、且つ大胆に歩いていくことが、私たちの希望となり、社会貢献を実現していくことに繋がってまいります。

健やかな社会とは、人々が今を幸せに生き、未来に向けて明るい夢を持てる社会であることだと考えています。人と地球への思いやりを生業として働ける喜びを社員一人ひとりが持っている。会社を育てるということは未来への責任を果たしていくこと。私たちは健やかな社会づくりに貢献していけると信じています。

抽出に夢を託して80年以上培ってきたのは使命観です。

1938年(昭和13年)の創業以来、私たち丸善製薬は、一貫して自然界の有用植物を中心に抽出手段を駆使して、お客様の目線に立った、安全性の高い機能性成分を追い求め、単に安心できる素材提供だけではなく、人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全に努めてまいりました。

私たちは、どのような時代にあっても、社会から要求される製品、サービスを継続して提供していくことが、企業の存在価値の源泉となる『お客様の満足』につながることを考えております。

丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開し活動してまいりました。

これからも、機能性成分をキーワードに活動し続けてまいります。

医薬品や化粧品、食品添加物などの分野で、私たちは「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みをお届けし続けてまいります。

### タグライン「自然の恵みをつなぐ」について

丸善製薬はバルクメーカーとして高品質な原料製品を提供することで発展を遂げてまいりました。現在はお客様と共に商品を開発、次世代商品のコンセプトを私たちから提案、お客様の依頼を受けて原料となる植物の試験栽培など様々な取り組みを行っています。

2012年にタグライン「自然の恵みを運ぶ」を制定いたしました。創立70周年を迎える機会に改めて企業ドメインを見つめなおし、自然の恵みをさまざまな人や場所にお届けする＝「運ぶ」という従来の枠を超えて、自然の恵みを新たな価値観に「つなげていく」という、次世代のビジョンが見えてまいりました。

多様な手段によって私たちの提供できる価値を、お客様へ、社会へ、そして未来へ、しっかりとつなぎ合わせ、社会の発展に貢献していくという意味を込め、創立70周年を迎える2019年7月13日に「自然の恵みをつなぐ」へと刷新いたしました。デザインは自然の恵みを表す植物の葉のイメージを取り入れることで私たちの事業のベースとなるもの、原点を表現しています。

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 経営理念

人間の幸福は 謝念につきる

人間の生きがいは 可能性への挑戦である

マルゼンの使命は 「奉仕」につきる

マルゼンの総意は 豊かさの追求である

制定：1979年7月14日

## 経営ビジョン

一. 抽出道を究め、新たな道へ

二. 新事業領域へ、そして世界へ

三. 人が活きる会社へ

中期経営計画：2019年4月～2024年3月

## 社是

一. 真心をこめて

小さな雑事にも真心をこめたい。心のこもった仕事、心のこもった製品には生命がある。訴えがある。魅力がある。

二. うるわしい職場に

志を同じくする者が一つの職場で一緒に働ける。まことに不思議な縁だ。仲良く助けあって、うるわしい職場を作り上げよう。

三. 相手の身になって

あとから来る人のために、あとから使用する人のために、買ってくださる身になって仕事をしよう。相手のことを考えない人は、自らほろびる。

四. それぞれの持ち場で

考える人、ペンを持つ人、体をはって働く人、それぞれの持ち場があり、それぞれの苦労がある。自己を過信するな。他をうらやむな。

五. 自己にきびしく

職場は働くところ、そしてその対価を得るところ。しかしただそれだけではない。自分自身を鍛えるところ。そのきびしさの中から喜びを得るところ。

制定：1969年10月

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

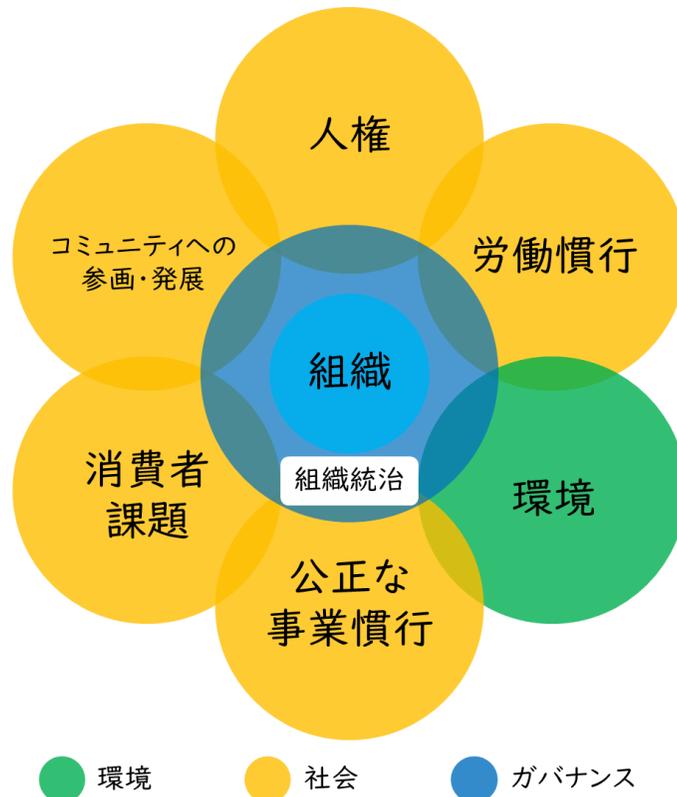
消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# 丸善製薬のサステナビリティ

丸善製薬は、2022年2月にサステナビリティ経営推進のため、国際規格であるISO26000を支持し、7つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」をサステナビリティ基本方針として策定いたしました。

## 「ISO26000」7つの中核主題とそれぞれの課題



### 1. 組織統治

#### 2. 人権

- ① デューデリジェンス
- ② 人権に関する危機的状況
- ③ 加担の回避
- ④ 苦情解決
- ⑤ 差別及び社会的弱者
- ⑥ 市民的及び政治的権利
- ⑦ 経済的、社会的及び文化的権利
- ⑧ 労働における基本的原則及び権利

### 3. 労働慣行

- ① 雇用及び雇用関係
- ② 労働条件及び社会的保護
- ③ 社会対話
- ④ 労働における安全衛生
- ⑤ 職場における人材育成及び訓練

### 4. 環境

- ① 汚染の予防
- ② 持続可能な資源の利用
- ③ 気候変動緩和及び適応
- ④ 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復

### 5. 公正な事業慣行

- ① 汚職防止
- ② 責任ある政治的関与
- ③ 公正な競争
- ④ バリューチェーンにおける社会的責任の推進
- ⑤ 財産権の尊重

### 6. 消費者課題

- ① 公正なマーケティング、情報及び契約慣行
- ② 消費者の安全衛生の保護
- ③ 持続可能な消費
- ④ 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決
- ⑤ 消費者データ保護及びプライバシー
- ⑥ 必要不可欠なサービスへのアクセス
- ⑦ 教育及び意識向上

### 7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

- ① コミュニティへの参画
- ② 教育及び文化
- ③ 雇用創出及び技術開発
- ④ 技術の開発及び技術へのアクセス
- ⑤ 富及び所得の創出
- ⑥ 健康
- ⑦ 社会的投資

※出典：「日本語訳ISO26000:2010 社会的責任に関する手引」

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## サステナビリティ基本方針

丸善製薬は、「サステナビリティ基本方針」を定め、持続的な成長と社会への貢献を追求してまいります。ステークホルダーとの良好な関係を築き、社会課題に取り組みながら事業活動を通じて収益性を高め、良き企業市民として社会的責任を果たしてまいります。

### 1. 組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

### 2. 人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

### 3. 労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

### 4. 環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

### 5. 公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。また、社会環境面に配慮した、持続可能な調達活動を実施します。

### 6. 消費者課題

自然からの恵み(有用性)を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける高品質な製品として安定提供します。

### 7. コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組めます。

制定：2022年2月24日

## 国連グローバル・コンパクトへの賛同

丸善製薬は、国連が提唱している、持続可能な発展を実現するための国際的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト(以下、UNGC)」に賛同を表明する署名を行い、2023年10月23日に参加企業として登録されました。

あわせて、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加盟いたしました。

UNGCは、国連と民間(企業・団体)が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブです。

UNGCに署名する企業・団体は、「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」に関わる10原則に賛同し、その実現に向けて努力を継続することが求められています。

丸善製薬は、UNGCの人権、労働、環境、腐敗防止に関わる10原則を支持するトップコミットメントのもと、社会に寄与する良き企業市民として、グローバル社会と協調しながら、全ての事業活動をとおして、UNGC10原則を実践していきます。

WE SUPPORT



### 国連グローバル・コンパクトの4分野10原則

人権	企業は、原則1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
労働	企業は、原則3: 結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、 原則4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
環境	企業は、原則7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及を奨励すべきである
腐敗防止	企業は、原則10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# 企業倫理方針・行動規範

## 企業倫理方針と行動規範

丸善製薬は、「企業倫理方針」と「行動規範」を定め、コンプライアンス経営の推進に取り組んでいます。

「企業倫理方針」とは、企業倫理と法令遵守に対する当社の基本的な考え方をまとめたものであり、「行動規範」とは、この方針を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。これらの考え方を社内で共有し、実践することで、お客様・社会から信頼される企業を目指してまいります。

## 企業倫理方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。この実現のために「企業倫理方針」を策定し、法令や社会ルールおよびその精神を理解し遵守するとともに、社会倫理を尊重し社会的責任を果たしてまいります。

### ■お客様に対して

お客様のニーズと社会課題の解決を見据えた商品の供給に努めます。  
サプライチェーンにおいて倫理的な調達を行います。  
情報セキュリティに努めます。

### ■社会に対して

遵法に徹して公正な企業活動を行い、適切な情報開示を行います。  
持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した事業活動を実施します。  
社会の多様性に対応し、地域社会とのコミュニケーション活動を推進します。

### ■従業員に対して

全従業員の人権を尊重する活動を推進します。  
スキルアップを支援し、従業員が最大限に能力を発揮できるよう努めます。  
安全で快適な職場環境を整え、生産性を高めます。

制定：2024年1月19日

## 行動規範

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

「行動規範」は、「企業倫理方針」を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

世界が直面する環境課題および社会課題の解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と将来の地球環境と社会に対して責任を持って日々の事業活動に取り組んでまいります。

### 1. 社会への貢献

- ・社会に貢献し、持続可能な発展に努めることを使命とします。
- ・公正・透明性・誠実さ・信頼性など、重要な価値観を尊重します。
- ・素材探索から製品開発まで、分析技術と最先端の評価技術でお客様の声にお応えするとともに、社会課題の解決を見据えた商品の開発に努めます。
- ・お客様の満足度向上に貢献できるよう、安全・安心を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- ・事故や不良品が発生した時は、迅速に情報開示・安全対策等の対応を行います。
- ・地域社会への貢献を重視し、コミュニケーション活動を推進します。
- ・ボランティア活動や社会貢献活動に積極的に参加します。

### 2. 公正な企業活動

- ・各国・地域で定められた事業に関するすべての法令・規制・社会規範を遵守します。
- ・反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- ・独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- ・会社利益と相反する行為を行いません。
- ・取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 企業倫理方針・行動規範

### 3. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- ・コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- ・事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- ・他者の知的財産権を侵害しません。

### 4. 環境への配慮

- ・事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- ・研究・開発の段階から製品が環境に及ぼす影響を評価し、環境保全に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ・持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用状況を確認し、利用効率の改善を図ります。
- ・事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- ・化学物質の管理を徹底し、大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- ・有害物質の使用削減、廃棄物の削減、処理、処分の適正化や有効利用を推進します。
- ・生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。
- ・持続可能な調達をかなえるために環境保全に配慮した調達活動を行います。

### 5. 人権と多様性の尊重

- ・個人の人権と多様性を尊重します。
- ・基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- ・いかなる形態の現代奴隷・あらゆる強制労働を一切認めません。

- ・児童の道徳、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- ・精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。
- ・持続可能な調達をかなえるために社会面に配慮した調達活動を行います。

### 6. 労働慣行と人材育成

- ・事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- ・従業員の健康と安全を第一に考え、健全で働きやすい職場環境づくりと安全の確保に努めます。
- ・従業員と従業員の家族の仕事と私生活の充実のためにワークライフバランスの推進に取り組みます。
- ・結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、従業員の権利を尊重します。
- ・従業員に教育の機会を提供し、一人ひとりの適性、価値観に配慮した能力開発・自己実現を支援します。
- ・成果や能力を踏まえて、公平・公正・透明かつ意欲向上につながる人事制度を導入します。

制定：2024年1月19日

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

# 人権方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「人権方針」を策定し、企業活動全体において、すべての「ひと」が生まれながらにして持つ基本的権利である人権を尊重し、永続的に実現していくための活動を推進してまいります。

## 1. 基本的な考え方

丸善製薬は、国際人権章典（「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」）及び国際労働機関（ILO宣言）を支持し、規定された人権を尊重しています。また、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づく取り組みの実行を通じて、人権尊重の責任を果たします。

## 2. 人権尊重責務の実行

丸善製薬は、自らが人権侵害を引き起こさないよう努めます。また丸善製薬の事業活動において人権に対する負の影響が生じていることが判明した場合は、是正に向けて適切な対応をとり人権尊重の責任を果たします。

## 3. 適用範囲

本方針は、丸善製薬の全ての役員と従業員に適用します。また丸善製薬の製品・サービスに係る全てのビジネスパートナー及びサプライヤーに対して、本方針への理解と支持を求め、人権の尊重に努めて頂くよう働きかけていきます。

## 4. 適用法令

丸善製薬は、事業活動を行う各国における法令および規制を遵守します。各国の法令および規制と国際的に認められた人権規範との間に矛盾がある場合は、国際的な人権規範を尊重する方法を追求していきます。

## 5. 人権デューデリジェンスの実施

丸善製薬は、人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施します。丸善製薬の事業活動が社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止および軽減に取り組めます。

## 6. 救済

丸善製薬の事業活動において人権への負の影響を引き起こしたことが明らかとなった場合、あるいは取引関係者などを通じた関与が明らかとなった場合、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

## 7. 対話・協議

丸善製薬は、本方針を実行する過程において、ステークホルダーや独立した外部専門識者との対話と協議を行います。

## 8. 教育・研修

丸善製薬は、全ての役員と従業員に対し、本方針が丸善製薬の全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。

## 9. 情報開示

丸善製薬は、人権尊重の取り組みおよび人権デューデリジェンスの進捗状況について報告します。

## 10. 担当責任者

丸善製薬は、本方針の実行に責任を持つ責任者を明確にし、実施状況を監督します。

制定：2022年2月9日  
代表取締役社長

日暮泰広

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 環境方針

丸善製薬は、健康で豊かな生活を営むために、かけがえのない地球と限りある資源を次の世代に引き継ぐことが責務であることを認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進してまいります。

1. 生産から廃棄に至るまでの全過程において環境に及ぼす影響を十分に理解した上で、環境に配慮した製品開発と製造技術を推進します。
2. 環境保全活動を推進ならびに徹底するために環境マネジメントシステムを整備し改善していきます。
3. 事業活動に使用するエネルギーや水、原材料などは、温室効果ガスの排出削減および環境負荷の低減に配慮し効率的かつ持続可能とする使用を推進します。
4. 事業活動における廃棄物の削減とリサイクルを行うことにより省資源、省エネルギーに取り組めます。
5. 地域社会の一員として、生物多様性に配慮した事業活動を推進するとともに、環境保全活動への参加と社員の自主的な活動への支援に積極的に協力します。
6. 環境保全活動を推進するために社内体制の整備を行い、社員への周知徹底と意識高揚に努めます。
7. 関連する環境の法規制と当社が同意するその他の要求事項の遵守を約束します。

制定：2022年2月9日

## 持続可能な調達方針

丸善製薬は、すべてのサプライヤーからのご支援、ご協力のもと、持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した調達活動を実施します。

1. 品質本位  
自社の品質方針に準拠し、品質、安心、安全を優先した原材料の調達を行います。
2. 公正・公平性  
サプライヤーの選定においては、品質、価格、納期、取引条件、保有技術、サービス能力、協力度、安定調達、CSRへの取り組み等の観点から総合的な評価により行います。また2社以上のサプライヤーからの競争見積りを原則として、公平な参入機会を提供します。
3. 遵法・倫理  
社会の常識、関連する法令や倫理を含む会社の諸規程を遵守し、公正で良識ある調達活動を行います。またいかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。
4. 協働  
サプライヤーとの良好なコミュニケーションのもと、相互理解、信頼関係の構築により、社会の健全な発展を目指します。
5. 人権  
強制労働、児童労働、差別、非人道的扱いを支援することはありません。基本的人権を尊重し、労働環境、安全衛生に配慮した調達活動を推進します。
6. 環境  
人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全のために、関係する法令を遵守し、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生する調達活動を実践します。
7. 情報セキュリティの保持  
調達活動に関わる機密情報及び個人情報に係る法令を遵守厳重に管理します。

制定：2020年12月9日  
改定：2022年2月9日

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# サプライヤー行動規範

## 1. 品質と安全性の確保

- (1) 安全を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 事故や不良品が発生した時は、情報開示、安全対策等の対応を行います。

## 2. 法令・社会規範の遵守

- (1) 各国・地域で定められた事業に関する法令と社会規範を遵守します。
- (2) 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。
- (3) 反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- (4) 独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- (5) 会社利益と相反する行為を行いません。

## 3. 人権の尊重

- (1) 個人の人権と多様性を尊重します。
- (2) 基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- (3) いかなる形態の現代奴隷も一切認めません。
- (4) あらゆる強制労働を一切認めません。
- (5) 児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- (6) 結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、労働者の団結権や団体交渉の権利を尊重します。
- (7) 自らの事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- (8) 精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。

## 4. 環境への配慮

- (1) 事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- (2) 持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用効率の改善を図ります。
- (3) 廃棄物の削減、処理処分の適正化や有効利用を推進します。
- (4) 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- (5) 大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- (6) 生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

## 5. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- (1) コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- (2) 事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- (3) 他者の知的財産権を侵害しません。

制定：2022年2月9日

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬の サステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な 企業活動	消費者課題	コミュニティへの 参画及び発展
----------	------	-------------------	------	----	------	----	-------------	-------	--------------------

## 品質方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「品質方針」を策定し、『顧客満足度向上』ならびに『会社信頼度向上』の実現に取り組みます。

1. 人々の健康と美の実現を願って抽出道を究め、国内外のお客様のニーズと信頼に応える製品を提供します。
2. お客様に「安心・安全」な製品を「安定的」に提供する事を使命とし、品質の確保と向上に取り組みます。
3. 適用される法令・規制要求事項の遵守を基本とし、社会的要求事項に応えます。
4. 品質マネジメントシステムを運用し、その有効性の継続的な改善により信頼性の向上に努めます。

制定：2022年2月9日

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## SDGs宣言

丸善製薬は、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、SDGsの達成に貢献することを、主体的に果たすべき責任と捉え、事業活動を通じて、社会・環境課題等の解決に取組み、SDGsの達成に貢献していきたいと考えております。自然界の有用植物を中心に、そのものが持つ機能性成分を医薬品、化粧品、健康食品、食品添加物などの分野で素材提供しています。

長きにわたり向き合ってきた自然の恵みを、事業を通じて人びとの健康で豊かな暮らしへ貢献するため、事業に関わる全ての皆様と地球環境の将来に対して責任を持って日々の事業活動を行うべく、取り組みを開始しています。

これまでに経済産業省関東経済産業局公表の「SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項」をもとに作成されたオリジナルのチェックシートにより、当社のSDGsへの取り組み状況の確認を行い、また全従業員のSDGs貢献への意識向上のため、SDGsバッジを配布いたしました。

このバッジは2014年、2018年の2度にわたる集中豪雨により土砂災害被害を受けた広島市安佐北区大林地区の間伐材を使い製作されたものです。バッジを装着することで気候変動対策や緑の豊かさを守る意識を高めながら日々の業務に取り組んでいます。

これらに総合的に取り組む事で、経営理念や企業理念の実践、企業価値の向上に取り組んでまいります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



\*2015年9月国連サミットで参加国193ヶ国により採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2016年から2030年までの17の目標です。(国際連合広報センターWebサイトより)

## 丸善製薬株式会社 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2021年6月3日  
丸善製薬株式会社  
代表取締役 日暮 泰広

## 当社のSDGsへの貢献

## 公正な企業活動

役員と従業員が一体となり、法令遵守を徹底した企業活動を実施することで、パートナー、お取引先、地域の皆さまから信頼いただける企業を目指します。

## 【主な取組み】

- 法令遵守徹底に向けた社内規程・体制整備と継続的な啓発
- 汚職・贈収賄防止の啓発
- 最先端のセクハラ対策による情報の管理徹底
- 個人情報保護ポリシー制定・開示と情報管理状況の定例監査実施



## 人権の尊重

全従業員と、原材料調達から製造・販売にいたるまで関わるすべての人の人権を尊重し、誰もが働きがいを持って社会の実現に貢献してまいります。

## 【主な取組み】

- 休暇制度充実や業務効率化による長時間労働抑制等、働き方改革推進によるワークライフバランス向上(国連加盟企業「2017年」)
- 属性・産種別に応じた人材育成と特付形成、「特付」支援制度の充実
- 調達方針への基本的人権尊重の明記と継続的な啓発の実施



## 環境負荷の低減

事業活動における環境への負荷を考慮した取組み推進により、温室効果ガスの排出削減を実施し、地球環境の保全に努めてまいります。

## 【主な取組み】

- 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善・社内での啓発実施
- 省エネ設備・LED照明の導入による工場・オフィスでの省エネ実践
- 環境負荷低減工率100%推進(100%への転換、レーザー発電機導入)
- 排水処理・水質管理徹底による水資源の保全
- 久井コアームにおける抽出液濃縮肥化による循環サイクルの構築



## 自然の恵みをつなぐ

「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら、最先端の技術とたゆまぬ研究・開発により、お客様、社会そして未来へと、自然の恵みをお届けし続けます。

## 【主な取組み】

- 素材探索から製品開発までお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研鑽・向上のための取組み
- 社内アイデア提案会の開催
- 特許・商標等の知的財産管理の徹底



## 品質・安全性の確保と向上

品質の確保・向上のための体制構築と継続的改善、安全性の管理徹底により、お客様に安心して使っていただける確かな製品を安定してお届けしてまいります。

## 【主な取組み】

- 品質管理部門の設置と品質検査の徹底
- GMPを遵守した工場での主力製品製造
- 三次工程・精製部門のISO9001:2015認証取得
- 設計段階からの環境・健康リスク評価の徹底



## 地域への貢献

“Work locally, Think globally”(尾道から世界を考える)を実践する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

## 【主な取組み】

- 地域の消費者へ直接お届けする「尾道健康館シリーズ」の企画・販売
- 尾道市内の小中学校への尾道健康館シリーズのドリンクン寄付
- 尾道市役所建設への寄付
- 尾道地区における積極的な設備投資や地元企業への積極的参画
- 経済産業省「地域未来牽引企業」への認定



※SDGsとは Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略。持続可能な社会をつくるために、世界が掲げる持続可能な開発目標17の目標に169のターゲットに集約したものである(国連広報センターWebサイト)。国連サミットで採択された。国連加盟国193ヶ国が、SDGsを推進するための約束をした。

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参加及び発展

## マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の特定

丸善製薬は、経営ビジョンの実現やSDGsへ貢献するために、2050年のあるべき姿・ありたい姿を想い描き、2050年時点の社会像からバックキャストして2050年、2030年までに取り組むべきマテリアリティ(重要テーマ・重要課題)の検討を進め、2022年度に以下のステップを通じてマテリアリティを特定いたしました。

マテリアリティは、事業や地球環境、社会のサステナビリティを考慮した、当事業と社会の双方にとって重要な内容であることが望ましいととらえています。マテリアリティの特定後は社内外のステークホルダーからの助言等も踏まえながら、各マテリアリティに対する目標やKPI(Key Performance Indicator/重要業績評価指標)の設定を行い、2024年度から新たにスタートする中期経営計画(2024年4月~2030年3月)の重要課題として組み込み、経営とサステナビリティを推進してまいります。

### マテリアリティ特定プロセス



### マテリアリティマップ



マテリアリティの特定については、

- 1) まず、組織(企業)の視点から、持続可能な発展への影響を考慮して社会課題と企業活動との「関連性」を絞り込む。
- 2) 次に、その関連性における「重要性」の判断として、ステークホルダーの視点からステークホルダー及び持続可能な発展に及ぼす影響の程度、社会からの期待、行動の効果について考慮する。
- 3) 「重要性」の判断において、判断の拠り所とする基準を以下とする。
  - ① 課題がステークホルダー及び持続可能な発展に及ぼす影響の程度
  - ② 課題に対して行動をとった、あるいはとらなかったことによる影響
  - ③ 課題に対してステークホルダーが抱く懸念の程度
  - ④ それらの影響に関して、社会がそのような責任ある行動を期待しているか

★丸善製薬にとって優先するステークホルダー

- i) お客様 ii) 従業員 iii) 地域

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## マテリアリティ(重要テーマ・重要課題)

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	<p>■食品 人生100年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。</p> <p>■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。</p>	
	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013年度比40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013年度比20%削減を目指します。	
環境負荷の低減	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2において2013年度比46%削減を目指します。Scope3において2027年までに排出量を把握し、2030年に向け削減していくことを目指します。	
	水使用量の削減と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位量(取水量)について、2013年度比10%削減を目指します。	
	廃棄物発生量の削減	5R(Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>、Renewable<持続可能な資源の活用>、Repair<修理して使う>)を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。Reduce:プラスチック使用量の削減 Renewable:抽出原料残渣の100%有効利用化(堆肥化/燃料化/飼料化)	

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	
	サプライチェーンマネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	
	ダイバーシティ&インクルージョン	多様な人材が個性や能力を發揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を發揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境を目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	
人権の尊重(労働慣行)	ワークライフバランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を發揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を發揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	
	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルール徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	
	人材育成	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に發揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多彩な能力を最大限に發揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## サステナビリティ情報プラットフォーム

### Sedex (セデックス)

Sedex (Supplier Ethical Data Exchange) は、責任ある調達活動の推進などを目的としたイギリスのNPO 会員組織であり、会員間で責任ある事業慣行の情報を共有することのできるプラットフォームを提供しています。

丸善製薬では2016年に加入し、本社・本社工場、新尾道工場、三次工場の3サイトを登録いたしました。

取引先からのエシカル情報の共有要請に応えるために、サプライヤーとしてSAQ (Self Assessment Questionnaire) に回答し、プラットフォームを通じて情報共有を行っています。



Proud to be a  
**Sedex**  
Member

### EcoVadis (エコバディス)

EcoVadis社 (エコバディス社) は、グローバルサプライチェーンを通じた企業の環境・社会的慣行の改善を目指して2007年に設立された企業のESG関連取り組みの評価機関です。約175か国・約200業種100,000社以上の企業を対象に、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野における企業の方針/施策/実績について評価を行い、スコアカードを発行しています。

丸善製薬では2018年に加入し、4分野の質問票への回答を行っています。

2023年度は、上位5%または総合得点70~77点となる「ゴールド」評価を獲得いたしました。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
評価				
総合得点	54点	59点	65点	70点

### CDP (シーディーピー)

CDPは、2000年にイギリスで設立された国際的な環境非営利団体 (NGO) です。機関投資家によって運営されており、企業に気候変動、水、森林等に関する質問書を提供して情報開示を求め、回答内容から各企業のスコアリングを行なっています。

丸善製薬では2016年より「気候変動」「水セキュリティ」の各質問書への回答を行っています。

2023年度は気候変動「B-」、水セキュリティ「B」の評価を獲得いたしました。



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
気候変動	C	D	B-	B-
水セキュリティ	C	C	C	B

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## サステナビリティ・CSR意識の浸透

丸善製薬は、従業員一人ひとりに企業理念やサステナビリティ・CSR意識が浸透することで、事業活動が持続可能になると考えています。全ての従業員への浸透を図るため次のようなことに取り組んでいます。

### 「経営理念／社是カード」の配布

「経営理念」「社是」の更なる浸透、社員の共通認識となるよう、常時携帯できるポケットサイズのカードを作成し配布しました。

「社是」は創立20周年記念時に、企業哲学を明文化したものであり、前会長の日暮兵士郎が草案を作成し、採用されたものです。心の通った職場をうるわしい職場と表現し、真心をもって仕事に励むことの素晴らしさや、自己にきびしく何事も相手の立場になって考え行動する事を説くものです。

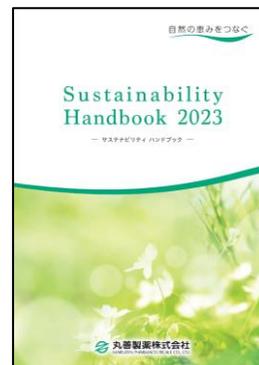


### 「サステナビリティハンドブック2023」の配布

経営理念や各種方針などをまとめた「サステナビリティハンドブック2023」を従業員に配布しています。

#### ～掲載内容～

- ・経営理念 ・社是 ・サステナビリティ基本方針
- ・環境方針 ・人権方針 ・品質方針
- ・持続可能な調達方針 ・行動規範
- ・従業員相談窓口（内部・外部） ・社歌



### 「サステナビリティレポート2023」説明会の開催

丸善製薬は、2023年度よりサステナビリティレポートをホームページ上で公開しており、従業員理解を高めるために説明会を開催しています。

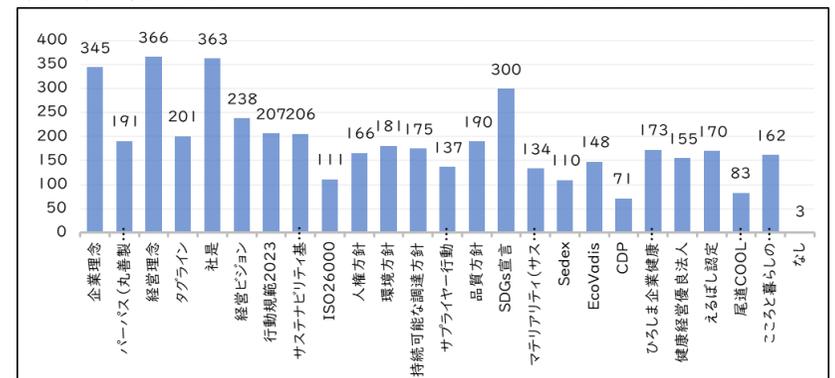
2023年度は、本社・本社工場、三次工場（2回）、新尾道工場、総合研究所の4拠点、5回の説明会を開催いたしました。

説明会終了後に理解度や会社の取り組みの周知度を確認するためにアンケートを実施しました。2024年度以降も継続して実施し、内容の理解度、取り組みの周知度の推移を確認してまいります。



#### 【説明会アンケート～抜粋～】

Q) 会社の取り組みとして知っているもの全てにチェックを入れてください



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

# 1. 組織統治

企業倫理の徹底をはかり、法令を遵守した事業活動を行います。  
また、迅速な意思決定が行える組織体制で透明性のある経営を行います。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# 1) コーポレートガバナンス

## 経営の監督と業務執行の体制

丸善製薬は、取締役会で経営の重要事項の決議、執行役員も交えた経営会議で業務執行状況の確認を行います。監査役は会計監査を実施しています。

また、執行役員制度に基づき、執行役員は、取締役会及び代表取締役の統括のもとに職務を執行することで経営の意思決定の迅速・適正化を図っています。

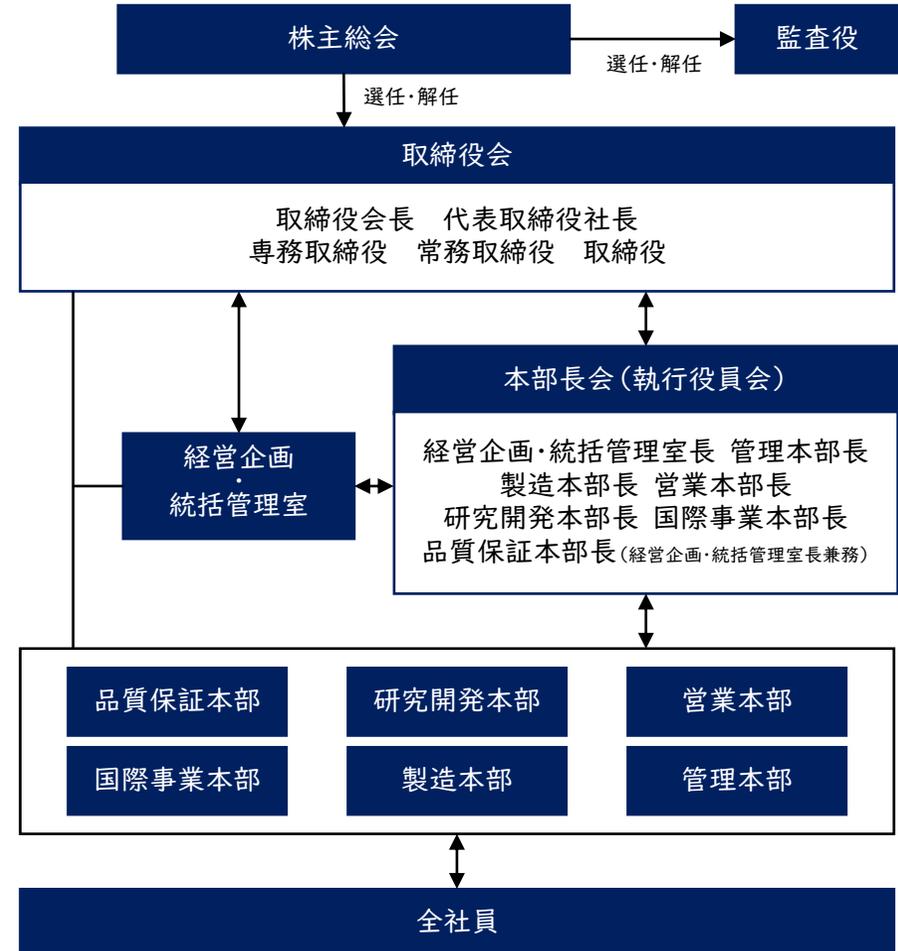
## 取締役会

取締役会は取締役全員（6人）で構成され、株主総会終結直後および毎月1回開催されます。取締役会では、法令及び当社「取締役会規程」で定める事項について決議し、また報告を受けるとともに、取締役および執行役員の職務の執行を監督しています。

## 専門委員会

委員会名称	主管本部
労働時間等設定改善委員会	管理本部
安全衛生委員会	製造本部・研究開発本部
社内倫理的配慮確認委員会	研究開発本部
エネルギー管理委員会	製造本部・管理本部
発明審査委員会	管理本部・研究開発本部

## 内部統制システム



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) コンプライアンス

丸善製薬は、役員と従業員が一体となり、社内規程で法令遵守を掲げ、法令遵守を徹底した公正な企業活動を行っています。企業活動に関係する法令の制定や改正があった場合には、総務部門が中心となって社内に通達し周知徹底を図っています。

法令や倫理を含む会社の諸規程への違反行為を発見した場合は、「コンプライアンス相談・通報窓口」に相談や通報をすることができ、相談・通報窓口は寄せられた内容の精査を行い、事実を正確に把握した上で必要に応じて是正措置をとっています。

内部相談窓口では相談相手が従業員ということもあり心理的に利用し辛いことに配慮し、外部相談窓口を設置することで相談しやすい環境を整えています。外部相談窓口では専門カウンセラーが電話/WEB/対面/オンラインでの相談に対応し、相談者が求めない限りは会社には相談内容を通報せず、プライバシーが確保された環境で相談をすることができます。

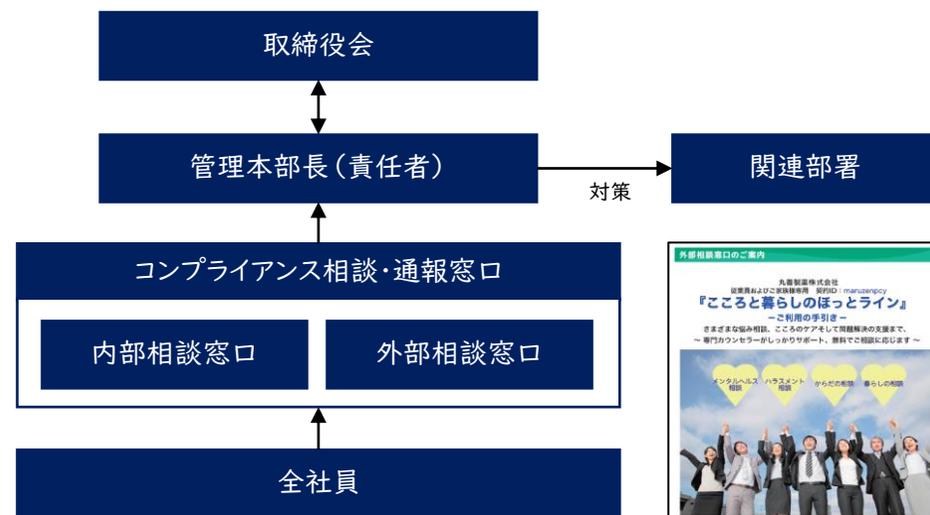
会社には、コンプライアンス案件か、ハラスメント案件か、それぞれの相談件数が報告され、相談者が会社への内容の通知を求めた場合に限り、相談者の合意が得られた情報の範囲で連絡が入り、会社としての対応をとることができる体制を整えています。

2023年度は外部講師をお招きし、管理職を対象としたコンプライアンス・ガバナンスに関する研修を実施いたしました。

### 【管理職を対象としたコンプライアンス・ガバナンスに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	-名	-名	-名	-名	64名
受講者数	-名	-名	-名	-名	52名
受講率	-名	-名	-名	-名	81.3%

### コンプライアンス対応体制



### 【コンプライアンスの相談・内部告発数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内部相談窓口	0件	0件	0件	0件	0件
外部相談窓口				0件	0件

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

### 3) リスクマネジメント

丸善製薬は、リスクに対し規程やガイドラインを策定し、災害および事故のリスク、情報セキュリティ上のリスク、品質上のリスクに的確に対処するための組織横断的な管理体制を構築してリスクマネジメントを行っています。

#### BCP(事業継続計画)への取り組み

丸善製薬は、医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売を主な事業としており、これらの事業が中断した場合、当社製品ならびにサービスを利用されているお客様に多大な影響を与え、お客様からの信頼を失うことが予想されることから、当社の事業を中断させる様々な脅威への対応として、事業継続計画を策定し、社内外の環境変化に応じた継続的改善を行っていくことを宣言しています。

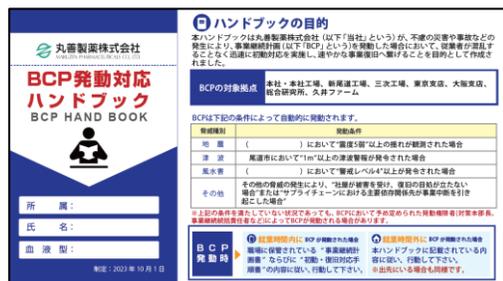
BCPの策定にあたり、事業継続に関する法令、国内外の指針、その他の規範等を遵守するとともに、気候関連災害や自然災害に対する強靭性(レジリエンス)及び適応の能力を強化することによって、SDGsの達成に貢献します。

不慮の災害や事故などの発生により、BCPが発動した場合において、混乱することなく迅速に初動対応を実施し、速やかな事業復旧へ繋げることができるよう、全ての従業員に「BCP発動対応ハンドブック」を配布しています。

全従業員を対象としたBCP研修を実施し、事業継続に関する意識と組織対応能力向上を図っています。

#### 【BCPに関する研修実績】

	2023年度
対象者数	466名
受講者数	466名
受講率	100%



#### 情報セキュリティへの取り組み

丸善製薬は、情報資産の保護と適切な使用のための対策を実施して、情報セキュリティの維持・向上の推進に取り組んでいます。また、「個人情報データの適正な取扱いに関する基本方針」を定め、保有する個人情報に適切に取り扱い、厳重に管理しています。

サイバー攻撃に備え、24時間365日対応の侵入検知サービスによる監視の強化や感染拡大検知技術を利用した2次感染防止対策など、最先端のセキュリティ対策を継続して行っています。標的型メール攻撃対策システムを導入し、侵入を防ぐ対策に限らず、攻撃を受けた際の検知・分析への対策も強化しています。

また、情報セキュリティ教育や定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象に「標的攻撃型メールに対する訓練」を実施しております。このメール訓練は、役員・従業員への「情報セキュリティに対する危機意識の強化」をはかるとともに、訓練結果を分析し今後のセキュリティ対策へ役立てることを目的としており、訓練後には、分析結果および情報セキュリティを取り巻くリスクについての報告を行っています。

サーバーやデータは免震構造の優れたデータセンターに保持し、バックアップを定期的に行い外部に保管するとともに、クラウド化を推進しリスク低減に努めています。在宅勤務などで業務を行う際のパソコン等の情報通信機器やソフトウェアの利用については、セキュリティを重視した利用環境を整備し、関連する規程を従業員に周知しています。

#### 【情報セキュリティに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	466名
受講者数	409名	417名	422名	437名	466名
受講率	100%	100%	100%	100%	100%

## 3) リスクマネジメント

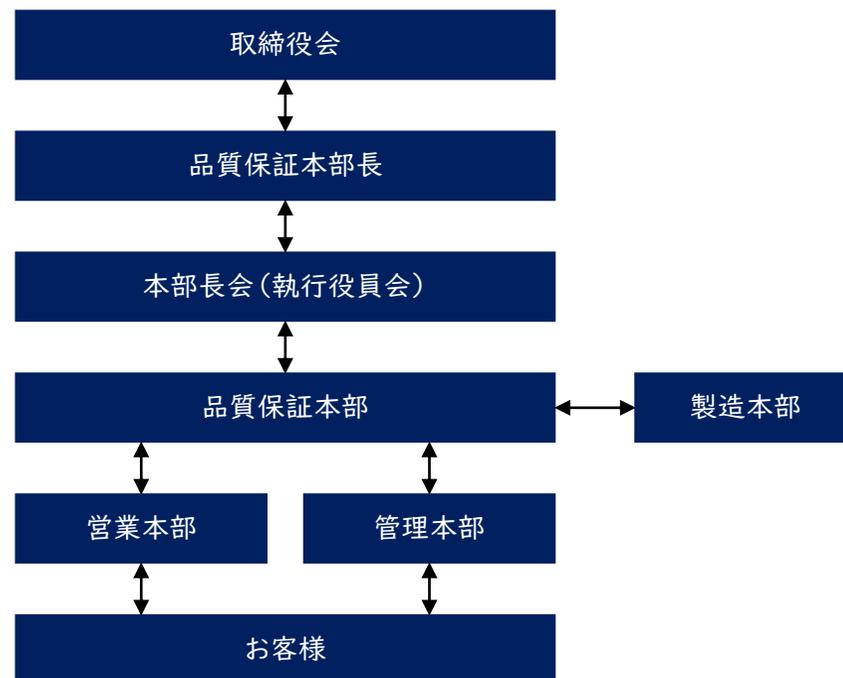
### クレーム発生時の取り組み

丸善製薬は、クレーム発生時には品質保証本部が軸となり発生原因と対策を明確にし、迅速な対応を行っています。また重大クレームが発生した際には速やかに取締役会に報告して適切な措置を講じています。併せてクレーム情報は関連部署への水平展開を図ることで再発防止に役立てており、製造時のトラブルについても同様に原因と対策を明確にして情報共有を行い、再発防止に役立てています。

#### 【製品回収／健康・安全問題の発生件数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
製品回収件数	0件	0件	0件	0件	0件
健康・安全問題件数	0件	0件	0件	0件	0件

### 重大クレーム対応体制



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2.人権

企業活動によって影響を受ける全ての人々の人権を尊重します。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 1) 人権の尊重

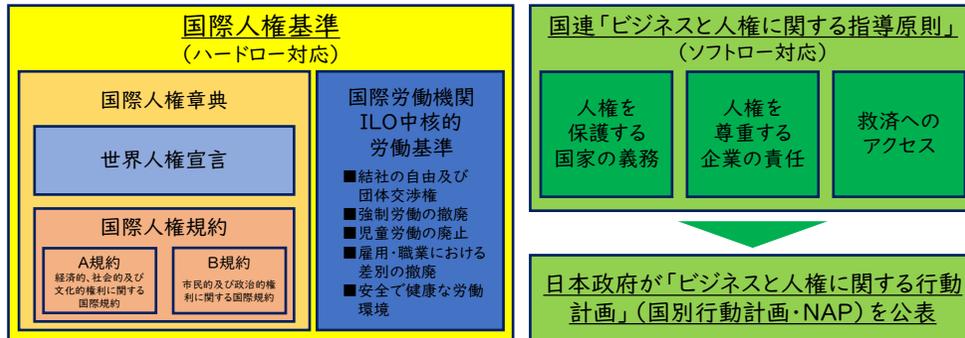
丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めます、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命観として、そこから生まれる喜びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開しています。これからも「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けていくためには、世界中の人権が守られ尊重される社会の構築が重要です。

バリューチェーン全体において直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、事業に関わるすべての「ひと」の人権を尊重するため、2022年2月に取締役会での審議を経て、「人権方針」を策定いたしました。今後は、当方針のもと人権尊重の取り組みを推進し、継続的な改善を行いながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重	人権尊重	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	ステークホルダーの人権リスク低減や従業員の人権教育に取り組み、従業員がいきいきと働き、能力を伸ばしていける環境づくりを目指します。	

### 人権に関連する主な国際基準・ガイドライン



### 人権方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりとつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「人権方針」を策定し、企業活動全体において、すべての「ひと」が生まれながらにして持つ基本的権利である人権を尊重し、永続的に実現していくための活動を推進してまいります。

#### 1. 基本的な考え方

丸善製薬は、国際人権章典(「世界人権宣言」、「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」)及び国際労働機関(ILO宣言)を支持し、規定された人権を尊重しています。また、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づき取り組みの実行を通じて、人権尊重の責任を果たします。

#### 2. 人権尊重責務の実行

丸善製薬は、自らが人権侵害を引き起こさないよう努めます。また丸善製薬の事業活動において人権に対する負の影響が生じていることが判明した場合は、是正に向けて適切な対応をとり人権尊重の責任を果たします。

#### 3. 適用範囲

本方針は、丸善製薬の全ての役員と従業員に適用します。また丸善製薬の製品・サービスに関係する全てのビジネスパートナー及びサプライヤーに対して、本方針への理解と支持を求め、人権の尊重に努めて頂くよう働きかけていきます。

#### 4. 適用法令

丸善製薬は、事業活動を行う各国における法令および規制を遵守します。各国の法令および規制と国際的に認められた人権規範との間に矛盾がある場合は、国際的な人権規範を尊重する方法を追求していきます。

#### 5. 人権デューデリジェンスの実施

丸善製薬は、人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施します。丸善製薬の事業活動が社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止および軽減に取り組みます。

#### 6. 救済

丸善製薬の事業活動において人権への負の影響を引き起こしたことが明らかとなった場合、あるいは取引関係者などを通じた関与が明らかとなった場合、適切な手続きを通じてその救済に取り組みます。

#### 7. 対話・協議

丸善製薬は、本方針を実行する過程において、ステークホルダーや独立した外部専門識者との対話と協議を行います。

#### 8. 教育・研修

丸善製薬は、全ての役員と従業員に対し、本方針が丸善製薬の全ての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。

#### 9. 情報開示

丸善製薬は、人権尊重の取り組みおよび人権デューデリジェンスの進捗状況について報告します。

#### 10. 担当責任者

丸善製薬は、本方針の実行に責任を持つ責任者を明確にし、実施状況を監督します。

制定:2022年2月9日  
代表取締役社長

日暮泰広

自然の恵みをつなぐ

丸善製薬株式会社

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

# 1) 人権の尊重

## 人権デューデリジェンス

企業における基本的な人権尊重のあり方を示す「国連ビジネスと人権に関する指導原則」では、国家による人権保護の義務、人権を尊重する企業の責任、人権侵害を受けたものへの救済について記されています。2020年に日本政府は「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に沿って「ビジネスと人権に関する行動計画(NAP)」を公表しました。

丸善製薬は、人権への悪影響を特定し、予防・軽減し、どのように対処するかについて説明するために、人権への悪影響の評価、調査結果への対処、対応の追跡調査、対処方法に関する情報発信を実施する人権デューデリジェンスの仕組みを構築することが必要であると考えています。

2023年度は、「今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版(法務省)」を参考に、人権マテリアリティとして「01 賃金の不足・未払い、生活賃金」「03 労働安全衛生」「05~08 ハラスメント」「09 強制的な労働」「12 外国人労働者の権利」「13 児童労働」「17 差別」「18 ジェンダーに関する人権問題」「23 賄賂・腐敗」「24 サプライチェーン上の人権問題」「25 救済へアクセスする権利」の14項目を特定しました。

今後は従業員やサプライヤーに対するアンケートによって情報収集し、総合的に評価した上で優先的に取り組む課題について明確にしていまいります。

自社内では児童労働、強制労働・人身売買が無いことを確認しました。

## 【企業が尊重すべき人権の分野】

No.	人権課題	自社	サプライチェーン	No.	人権課題	自社	サプライチェーン
01	賃金の不足・未払、生活賃金	○	◎	14	テクノロジー・AIに関する人権問題	○	
02	過剰・不当な労働時間			15	プライバシーの権利	○	
03	労働安全衛生	◎	◎	16	消費者の安全と知る権利		
04	社会保障を受ける権利			17	差別	○	◎
05	パワーハラスメント(パワハラ)	◎		18	ジェンダー(性的マイノリティを含む)に関する人権問題	◎	◎
06	セクシュアルハラスメント(セクハラ)	◎		19	表現の自由		
07	マタニティハラスメント/パタニティハラスメント	◎		20	先住民・地域住民の権利	○	○
08	介護ハラスメント(ケアハラスメント)	◎		21	環境・気候変動に関する人権問題		○
09	強制的な労働		◎	22	知的財産権		
10	居住移転の自由			23	賄賂・腐敗	◎	○
11	結社の自由	○		24	サプライチェーン上の人権問題	◎	◎
12	外国人労働者の権利		◎	25	救済へアクセスする権利	◎	○
13	児童労働		◎				

◎:とても重要 ○:重要

\*今企業に求められる『ビジネスと人権への対応』詳細版(法務省)より抜粋

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) 人権の尊重

### ハラスメント対応

丸善製薬は、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメントなどあらゆるハラスメントが発生しないよう「ハラスメント宣言書」を社内公開し、注意を呼びかけ、職場環境の改善に努めています。

「ハラスメント相談・通報窓口」を設け、各種ハラスメント行為への対応、従業員の意識向上とその実践に取り組んでいます。

内部相談窓口では相談相手が従業員ということもあり心理的に利用し辛いことに配慮し、外部相談窓口を設置することで相談しやすい環境を整えています。

外部相談窓口では専門カウンセラーが電話/WEB/対面/オンラインでの相談に対応し、相談者が求めない限りは会社には相談内容を通報せず、プライバシーが確保された環境で相談をすることができます。

定期的な啓発活動として、役員・従業員を対象に「人権(差別・ハラスメント)に関する研修」を実施することで社内浸透に努めております。

2023年度は、パートナーシップ制度の導入にあたり、役員・従業員を対象に「人権啓発動画」を配信いたしました。(P.34「パートナーシップ制度」参照。)

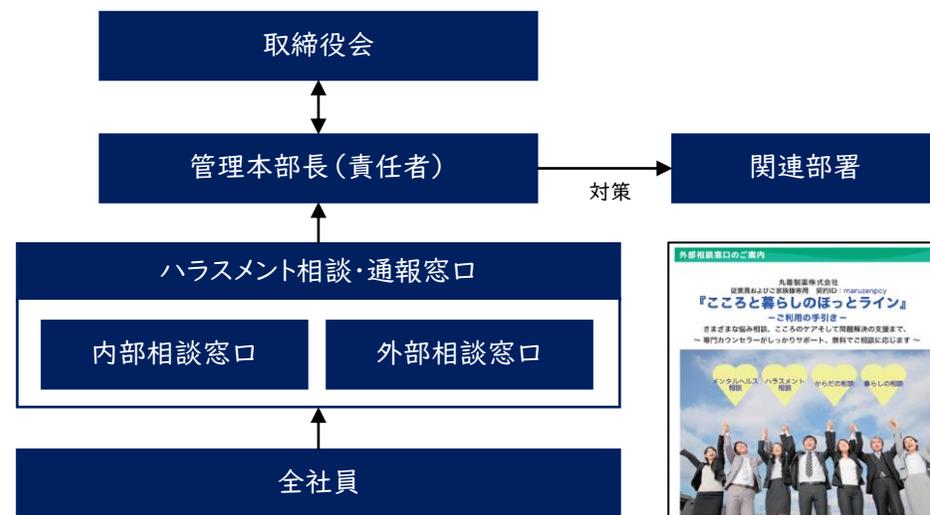
### 【人権に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名
受講者数	409名	417名	422名	437名	450名
受講率	100%	100%	100%	100%	100%

### 【管理職を対象とした人権に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名
受講者数	-名	-名	-名	63名	52名
受講率	-%	-%	-%	100%	81.3%

### ハラスメント対応体制



### 【差別・ハラスメントの内部告発数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内部告発数	0件	1件	0件	3件	1件
内部相談窓口	0件	0件	0件	2件	0件
外部相談窓口				1件	1件

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) ダイバーシティ&インクルージョン

丸善製薬は、多様性を尊重しお互いが認め合う、働きやすく働きがいのある職場をつくりまします。あらゆる差別のない雇用を推進し、多様な人材が個性や能力を發揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことのできる職場環境づくりに取り組み、新しい価値を創造し続けることを推進してまいります。

現在の変化の著しい市場環境においては、多様性（ダイバーシティ）と包摂（インクルージョン）の推進は企業経営に不可欠であると考えています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重	ダイバーシティ &インクルージョン	多様な人材が個性や能力を發揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことができ、働きがいのある職場環境づくりを目指します。	多様な人材が個性や能力を發揮し、お互いを認め合いながら、いきいきと働くことのできる職場環境づくりを目指します。障がい者、女性、シニア層がより活躍できる環境を目指します。	5 5.10 8 8.10 10 10.10 19 19.10

### 女性の活躍推進

丸善製薬は、さらなる企業価値向上のためには女性の活躍が不可欠であると考えています。「女性活躍推進法」に基づき行動計画を策定し、長期的に女性従業員が活躍できるよう仕事と育児の両立支援等環境整備に取り組んでいます。

2023年度は、女性従業員比率32.9%、女性管理職比率10.9%、男女間の勤続年数の差が7.9年となっています。

女性活躍推進法に基づく行動計画(2020年作成)では、女性の管理職数が少ないこと、女性の勤続年数が男性に比べ短いことを課題と捉え、2025年度までに女性管理職数を10名以上にすること、男女の勤続年数の差を0.5年以上短縮することを目標として掲げています。

性別を問わず活躍できる企業であり続けるために、自信を持って働き、キャリアアップを目指すことを応援する研修の実施、管理職に必要なスキル習得のための研修の実施などに取り組んでまいります。

### 女性活躍に関する認定

#### 【えるぼし認定】

女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良であると認められ、2023年6月15日に「えるぼし認定」の3つ星(3段階目)を取得しました。



～「えるぼし認定」とは/厚生労働省HP～

[https://shokuba.mhlw.go.jp/published/special\\_02.htm](https://shokuba.mhlw.go.jp/published/special_02.htm)

#### 【従業員数/女性比率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
従業員数	409名	417名	422名	437名	450名
男性	288名	287名	291名	298名	302名
女性	121名	130名	131名	139名	148名
女性従業員比率	29.6%	31.2%	31.0%	31.8%	32.9%
正社員	381名	387名	397名	411名	425名
男性	277名	276名	284名	289名	292名
女性	104名	111名	113名	122名	133名
女性正社員比率	27.3%	28.7%	28.5%	29.7%	31.3%
臨時雇用者	28名	30名	25名	26名	25名
男性	11名	11名	7名	9名	10名
女性	17名	19名	18名	17名	15名
女性臨時雇用者比率	60.7%	63.3%	72.0%	65.4%	60.0%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) ダイバーシティ&インクルージョン

### 【取締役数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
取締役数	6名	6名	6名	6名	6名
男性	5名	5名	5名	5名	5名
女性	1名	1名	1名	1名	1名
女性取締役比率	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%

### 【管理職数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
管理職数	61名	63名	61名	63名	64名
男性	55名	57名	55名	56名	57名
女性	6名	6名	6名	7名	7名
女性管理職比率	9.8%	9.5%	9.8%	11.1%	10.9%

女性活躍推進法に基づく行動計画(2020年作成)  
「2025年度までに女性管理職数を10名以上にする」

### 【正社員新規採用者数／離職者数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
正社員新規採用者数	28名	18名	20名	24名	21名
男性	18名	10名	16名	15名	11名
女性	10名	8名	4名	9名	10名
労働施策総合推進法に基づく中途採用比率	64%	52%	68%	70%	14%
正社員離職者数	12名	12名	10名	9名	10名
男性	10名	11名	8名	9名	9名
女性	2名	1名	2名	0名	1名

### 【平均年齢】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
全従業員	42.0歳	42.2歳	40.9歳	41.2歳	39.7歳
男性	42.9歳	43.3歳	41.2歳	41.5歳	41.4歳
女性	39.8歳	39.7歳	40.1歳	40.4歳	36.3歳

### 【平均勤続年数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
全従業員	15.4年	17.0年	15.3年	15.5年	13.8年
男性	17.3年	19.5年	16.8年	17.2年	16.4年
女性	11.1年	11.4年	11.9年	11.7年	8.5年
男女差	6.2年	8.1年	4.9年	5.5年	7.9年

女性活躍推進法に基づく行動計画(2020年作成)  
「男女の勤続年数の差を0.5年以上短縮する」

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 2) ダイバーシティ&インクルージョン

### 【平均年間賃金】

	2021年度	2022年度	2023年度
全従業員の平均年間賃金	-	6,035,437円	6,163,910円
男性	-	6,506,216円	6,649,709円
女性	-	4,982,375円	5,133,010円
男女差	-	76.6%	77.2%
正社員の平均年間賃金	-	6,326,578円	6,451,943円
男性	-	6,792,977円	6,969,198円
女性	-	5,261,932円	5,356,779円
男女差	-	77.5%	76.9%
臨時雇用の平均年間賃金	-	2,112,034円	1,829,349円
男性	-	2,228,212円	1,909,086円
女性	-	1,909,665円	1,652,158円
男女差	-	85.8%	86.6%

\*賃金差=女性の平均年間賃金÷男性の平均年間賃金×100%

\*等級別の給与制度となっており、同一等級・職群での男女別格差はありません。

### シニアの活躍推進

丸善製薬は正社員の定年年齢を60歳から65歳へ変更し、従業員が安心して長く勤めることができる環境を整えました。また、労働意欲が高く、今後も会社で能力を発揮できる65歳以上の従業員を再雇用する制度を設け、年齢にかかわらず活躍できる機会を提供しています。

### 【再雇用者数／再雇用率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
定年退職者数	6名	7名	5名	4名	7名
うち再雇用者数	0名	0名	1名	0名	0名
再雇用率	0%	0%	20.0%	0%	0%
再雇用者総数	1名	1名	2名	2名	0名

### 障がい者の活躍推進

丸善製薬は、障がいのある従業員を継続して採用するとともに、働きやすい職場づくりを推進しています。障がい内容に配慮し、本人の能力や意欲、適性を考慮して採用・人員配置を行い、障がいを抱えていても能力を発揮し、生き活きと活躍できる人事制度を運用しています。

2018年9月に「障がい者雇用推進宣言」を宣言し、障がい者雇用の促進に努めてまいりました。

2024年3月時点で障がい者雇用率は、3.43%となりました。法定雇用率（企業：2.3%）は満たしておりますが、2024年度から2.5%、2026年度から2.7%と段階的に引き上げられることが発表されていますので、法令の範囲に留まらず雇用促進を目指してまいります。

### 【障がい者雇用者数／雇用率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
障がい者雇用者数 *2024年3月末時点	11名	14名	13名	13名	15名
障がい者雇用率（年間）	2.22%	2.12%	2.61%	2.92%	3.43%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) ダイバーシティ&インクルージョン

障がいの内容や程度は人によって異なるため、それぞれの個性に合わせて仕事内容を工夫するとともに、必要に応じて就業支援の取り組みを行っています。

障がい者が勤務する職場では説明会（得意なこと、不得意なこと、必要な支援など）を開催し、同僚メンバーの理解を深めるようにしています。

### 【手話勉強会の開催】

聴覚障害に関する理解を深めるため、本社・本社工場にて手話勉強会を開催いたしました。初めての試みということもあり、業務中のコミュニケーション手段の一つとして「仕事で役立つ手話」という内容での開催となりました。

製造本部・品質保証本部・管理本部・営業本部から延べ85名の従業員が参加いたしました。

### ～勉強会テキスト～



### ～勉強会の様子～

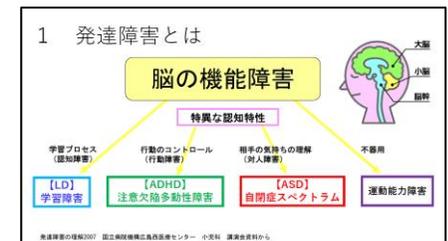


### 【障がい者雇用社内研修会の開催】

発達障害に関する理解を深めるため、本社・本社工場にて社内研修会を開催いたしました。

製造本部・品質保証本部・管理本部・営業本部から延べ63名の従業員が参加いたしました。

### ～勉強会テキスト～



### ～勉強会の様子～



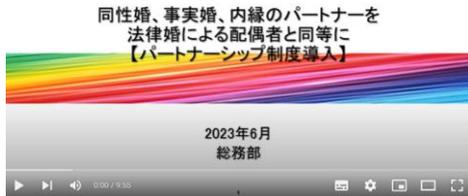
トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) ダイバーシティ&インクルージョン

### パートナーシップ制度

丸善製薬では、2023年4月より事実婚、内縁、同性婚パートナーを法律婚と同等に扱うパートナーシップ制度を導入いたしました。

役員・従業員を対象に「パートナーシップ制度説明動画」「人権啓発動画」を視聴いただくことにより、パートナーシップ制度とLGBT等の性的少数者への理解を深めていただきました。



■丸善製薬総務部制作動画  
「同性婚、事実婚、内縁のパートナーを法律婚による配偶者と同等に【パートナーシップ制度導入】」



■法務省人権啓発動画  
「あなたがあなたらしく生きるために性的マイノリティと人権」

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 3.労働慣行

社員の多様性を尊重し、安全でやりがいのある働きやすい企業風土の醸成に努めます。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参加及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) ワークライフバランス

丸善製薬は、働き方改革に貢献する企業を目指して、「労働時間等設定改善委員会」を設置し、有給休暇取得の促進と残業時間低減の促進、在宅勤務、育児・介護・看護の支援等に努めています。従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指しています。

次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づき行動計画を策定し、働き方見直しによる労働条件の整備（ノー残業デー）、子育てを行う従業員の職場と家庭における生活の両立を支援する雇用環境の整備に取り組んでいます。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	ワークライフ バランス	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	従業員一人ひとりのライフスタイルに応じて能力を発揮し、働きがいを持って働ける職場の実現を目指します。	3 働きがい 8 持続可能な消費と生産

### 有給休暇取得の促進

年次有給休暇の取得促進を図るため、「時間単位年休」を導入し、「有給休暇取得計画実績管理表」の共有や、管理職が呼びかけを行うことにより、有給休暇を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。

1人当たり年間12日の有給休暇を取得することを目標として設定し、2023年度は取得日数が13日/人、取得率が71.0%となりました。「年次有給休暇の年5日取得義務制度」については、対象者全員が義務を果たしています。

### 【年次有給休暇取得日数/取得率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
取得日数	11日/人	11日/人	12日/人	13日/人	13日/人
取得率	62.3%	65.7%	70.0%	73.0%	71.0%

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画（2020年作成）  
「有給休暇の平均取得率を60%以上とする」

### 残業時間低減の促進・ノー残業デーの実施・業務改善

残業時間の低減促進を図るため、1人当たり月間4.5時間を残業時間目標として設定し、管理職が部員・課員へ就業時間以降の早期退社を促し、管理者自身が長時間労働にならないよう注意喚起しています。また、月2回第2・3水曜日に定時退社の取り組みとして「ノー残業デー」を設けています。「作業の効率化」「無駄な残業を行わない」といった従業員の意識改革に努めています。

### 【月次実働時間と月次平均残業時間】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実働時間	141時間/月	140時間/月	139時間/月	140時間/月	142時間/月
平均残業時間	5.00時間	2.00時間	3.30時間	3.24時間	3.18時間

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画（2020年作成）  
「ノー残業デーを月に2日設定し、実施する」

### 生活賃金

丸善製薬は、賃金が従業員およびその家族が人間らしく生活するために必要な額となるように考慮しています。支給する給与が「最低賃金」「生活賃金」を上回っていることを日本労働組合総連合会が発行する「連合リビングウェッジ(2023簡易改定版)」と比較して確認しました。

### 【初任給と最低賃金/生活賃金との比較】

	初任給	最低賃金との比較	生活賃金との比較
専門学校卒・短期大学卒	191,000円/月	139%	125%
4年制大学卒	220,000円/月	160%	143%
6年制大学卒/大学院修了	237,000円/月	172%	155%

\*広島県の最低賃金(970円/h)、生活賃金(1,080円/h)、2023年度月次実働時間より算出  
\*等級別の給与制度となっており、同一等級・職群での男女別格差はありません。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) ワークライフバランス

### 育児・介護・看護と仕事の両立

ライフスタイルの多様化に伴い、働き方にも多様性が求められる中、育児・介護を目的とした休業、子の看護休暇、家族の介護休暇、育児・介護時短勤務、育児時差出勤などの制度を設けています。育児・介護休業法に基づく各制度のうち、取得率の低い男性従業員の育児休業制度や介護休業制度について、パンフレット等の掲示・配布により周知を行いました。

2023年度の取得率は、男性の育児休業取得率は20.0%、介護休業取得率は0%でしたが、引き続き諸制度の周知に努めてまいります。



### 【時短勤務者数／在宅勤務利用者数】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
時短勤務者数	8名	10名	12名	9名	10名
在宅勤務利用者数	0名	1名	19名	25名	6名

### 【育児休業の取得状況／取得率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
子が出生した従業員数	16名	22名	16名	10名	17名
男性	12名	18名	15名	8名	15名
女性	4名	4名	1名	2名	2名

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
育児休業を取得した従業員数	5名	4名	4名	3名	5名
男性	1名	0名	3名	1名	3名
女性	4名	4名	1名	2名	2名
育児休業取得率	31.3%	18.2%	25.0%	30.0%	29.4%
男性	8.3%	0%	20.0%	12.5%	20.0%
女性	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画(2020年作成)

「子供の出生時に父親が取得できる  
育児休業制度の取得者を増やす」

### 【育児休業後の復職率／定着率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
育児休業から復職後に在籍している従業員の総数	5名	4名	4名	0名	5名
男性	1名	0名	3名	0名	3名
女性	4名	4名	1名	－名	2名
育児休業後の従業員の復職率	100%	100%	100%	0%	100%
男性	100%	－%	100%	0%	100%
女性	100%	100%	100%	－%	100%
育児休業後の従業員の定着率	100%	100%	100%	0%	100%
男性	100%	－%	100%	0%	100%
女性	100%	100%	100%	－%	100%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) ワークライフバランス

### 【介護休業の取得状況】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
介護休業を取得した従業員数	0名	0名	0名	0名	0名
男性	0名	0名	0名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名
介護休業から復職後に在籍している従業員の総数	0名	0名	0名	0名	0名
男性	0名	0名	0名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名
介護休業後の従業員の復職率	-%	-%	-%	-%	-%
男性	-%	-%	-%	-%	-%
女性	-%	-%	-%	-%	-%
介護休業後の従業員の定着率	-%	-%	-%	-%	-%
男性	-%	-%	-%	-%	-%
女性	-%	-%	-%	-%	-%

### ワークライフバランスに関する研修

2023年度は管理職を対象にワークライフバランスに関する研修として労働時間管理、改正育児介護休業法等に関する研修を実施いたしました。

### 【管理職を対象としたワークライフバランスに関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	-名	-名	-名	63名	64名
受検者数	-名	-名	-名	63名	64名
受検率	-名	-名	-名	100%	100%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 労働安全衛生

丸善製薬は、従業員の健康と安全を第一に考え、危険に晒されず、安心感を得るために、可能な限り安全な職場環境を作るよう努めています。

「労働基準法」「労働安全衛生法」など関係法令に基づき、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止し、従業員の安全と健康を確保するとともに快適な職場環境の形成を促進することを目的として「安全衛生に関する規程」を定めています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	労働安全衛生	労働安全衛生に関する法令遵守および安全意識と設備安全を徹底し、従業員が、安全、健康で快適に働けることを目指します。	労働安全衛生に関する法令遵守のもと、安全衛生に関する基本ルール徹底、設備や作業手順の改善により、安全操業基盤を強固にすることで、従業員が、安全、健康で快適に働ける職場環境づくりを目指します。	3 3 Good Jobs and Decent Work 8 8 Decent Work and Economic Growth

### リスクアセスメントの実施

本社・本社工場、三次工場、新尾道工場、総合研究所において、「安全衛生委員会」を設置し、毎月の安全パトロール、安全職場会議、安全衛生に関する研修を行うことで、継続して安全衛生の高い事業所を維持するためのリスクアセスメント活動を行っています。

その結果に基づいて、危険または健康被害を防止するための措置、関連する作業に従事する従業員への保護具の提供を行っています。

ブロアーやコンプレッサー、クーリングタワーなど著しく騒音・振動を発生する設備については、行政の検査のもと防音対策などの基準をクリアした設置を行っています。また、機器更新時には、省エネルギーかつ低騒音型機器へ更新するなど、職場環境の改善にも取り組んでいます。

2023年度は、三次工場にて休業労働災害となる事故が発生しました。事故内容を全工場へ共有し再発防止の呼びかけを行いました。

各工場における無災害達成日数は、2024年3月末時点で本社工場4032日、新尾道工場4362日、三次工場33日となっています。

### 【本社工場倉庫防潮堤設置】

本社工場倉庫において「南海トラフ地震を想定した高潮」に対処するため、防潮堤設置の工事を行いました。



### 【安全衛生上の研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名
受講者数	28名	18名	20名	23名	21名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	5.3%	4.7%

### 【労働災害数(労働災害度数率、労働災害強度率)】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
休業災害件数	0件	0件	0件	0件	1件
不休災害件数	4件	4件	6件	6件	7件
死亡災害件数	0件	0件	0件	0件	0件
労働災害による死者数	0名	0名	0名	0名	0名
労働災害度数率*1	0	0	0	0	0
延べ労働損失日数	0日	0日	0日	0日	23日
労働災害強度率*2	0	0	0	0	0.028

\*1:100万延べ実労働時間あたりの労働災害による死傷者数(災害発生頻度をあらわしたもの)

\*2:1000延べ実労働時間あたりの延べ労働損失日数(災害の重篤度をあらわしたもの)

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参加及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 労働安全衛生

### 防災意識向上への取り組み

災害発生時の従業員の安否確認のため「安否確認システム」を導入しています。年1回防災訓練を実施し、安否確認訓練や事業所別訓練概要を参考に各事業所において防災備蓄品の点検を実施し、防災意識の向上に努めています。

2023年度は、6月に「線状降水帯の発生」を想定した訓練、11月に「南海トラフ地震の発生」を想定した訓練を実施いたしました。

### 【安否確認システム訓練参加率】

	2023年度	
安否確認システム訓練参加率	6月	71.4%
	11月	100.0%

### 健康診断とストレスチェックの機会提供

すべての従業員に定期的な健康診断の受診とストレスチェック(任意)の受検の機会を提供しています。健康診断結果をもとに「健康れぽーと」を発行し、健康課題の周知と改善を図るために、毎月1回、健康情報「まるぜん保健室」を配信しています。希望する従業員には健康促進を目的として、自社開発素材を配合した機能性表示食品「アクティボディ<sup>®</sup>顆粒」を配布しています。

### 【健康診断受診率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	419名	428名	437名	443名	456名
受診者数	414名	424名	431名	439名	454名
受診率	98.8%	99.1%	98.6%	99.1%	99.6%
二次検診対象者数	3名	3名	6名	4名	6名
二次検診受診者数	1名	3名	3名	1名	0名
二次検診受診率	33.3%	100.0%	50.0%	25.0%	0%

### 【ストレスチェック受検率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	405名	413名	424名	439名	465名
受検者数	313名	320名	355名	377名	353名
受検率	77.3%	77.5%	83.7%	85.9%	75.9%

### 【管理職を対象としたメンタルヘルス研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	-	-	-	63名	-
受検者数	-	-	-	63名	-
受検率	-	-	-	100%	-

### 【社内健康情報誌「まるぜん保健室」の配信】

No.	掲載内容
第1号	生活習慣病の改善は「肥満・メタボ改善」が決め手
第2号	肥満・メタボ予防には「一人前の食べ方」と「適度な運動」
第3号	動脈硬化につながる病気、「脂質異常症」とは
第4号	食事と運動習慣の改善で血液をサラサラに
第5号	沈黙の臓器「肝臓」
第6号	生活習慣を見直して肝機能改善を
第7号	望ましい運動習慣を身につけよう
第8号	良好な睡眠とは？睡眠の重要性を知ろう
第9号	熟睡は健康のもと～質の良い睡眠を目指そう～
第10号	女性特有の病気について～がん検診の重要性を知ろう～

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 2) 労働安全衛生

### 有機溶剤健診・特定化学物質健診の受診

品質保証部門、製造部門、研究開発部門では有機溶剤や化学物質を使用します。対象者に対して有機溶剤健診・特定化学物質健診の受診機会を提供しています。

#### 【有機溶剤健診・特定化学物質健診受診率】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	125名	139名	143名	150名	113名
受診者数	125名	139名	143名	150名	113名
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### 「禁煙の日」制定

丸善製薬では、若年層の喫煙率が高い傾向にあることから、喫煙率低下に向けた取り組みとして、毎月22日を「禁煙の日」として制定しスローガンを設けました。

毎月22日に喫煙の害と禁煙の大切さを知って実際に行動し、自身の健康を考える機会としていただけるよう、全従業員に「禁煙のススメ～気軽な気持ちではじめましょう～」を共有し呼びかけを行っています。

スローガン

「毎月22日は”禁煙の日”

吸わん吸わん(スワンスワン)で禁煙を！」

### 外部からの評価

#### 【ひろしま企業健康宣言 健康づくり優良事業所認定】

全国健康保険協会(協会けんぽ)広島支部主催の「ひろしま企業健康宣言」に参加し、2023度において「ひろしま企業健康宣言健康づくり優良事業所」として、健康増進に積極的に取り組んでいる企業と認定されました。

丸善製薬では、以下の健康づくりに関する取り組み内容等が総合的に評価され認定されています。

～取組内容～

1. 特定保健指導の同日受診実施
2. 社員皆様の健康の推進の為、希望者にアクティボディ®顆粒の提供
3. 感染症対策として、職場の環境整備
4. ワクチン接種に対する支援(特別有給休暇付与)

#### 【健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)認定】

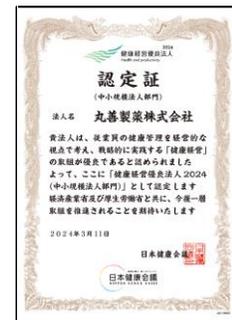
経済産業省が主催する「健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)」に認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標としています。

～取組内容～

1. 健康診断結果からの会社全体の健康課題の把握
2. 社員皆様の健康増進の為、希望者にアクティボディ®顆粒の提供
3. 特定保健指導の実施
4. 同好会活動等の運動の機会拡充に向けた取り組み
5. 感染症対策に向けた取り組み



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 3) 人材育成

社員の能力や仕事での成果を重視した人事制度を導入しています。高い目標に向かって挑戦することを評価し、その成果と姿勢を処遇に反映することで、従業員の意欲向上につなげています。また、海外留学制度、資格の取得、社内外セミナーの受講などを通じて従業員のスキルアップをサポートしています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
人権の尊重 (労働慣行)	人材育成	従業員一人ひとりが多様な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	従業員一人ひとりが多様な能力を最大限に発揮し、高い目標に向かって挑戦することで成果を創出する人材の育成を目指します。	

### キャリア形成支援制度

#### 【自己申告制度】

年に1度、現在の仕事状況や将来担当したい業務、希望する自己開発等について申告し、それを元に上司と面談して自身のキャリアプランを検討する制度です。

#### 【複線型職能等級制度】

入社後、一定年数経過後に自分に合ったキャリア形成を実現するために、管理職層も目指すことができる総合職とスキルを追求していく一般職のどちらかを選択する制度です。

### スキルアップ支援制度

#### 【階層別研修】

新入社員から管理職層までの職位に応じた研修を実施、それぞれの階層に必要な教育制度を充実させることで、人的資源を最大限に活用できる人材の育成に取り組んでいます。

2023年度は、中途社員研修、中堅監督職スキルアップ研修、管理職層育成研修の実施と事業所単位による新入社員フォローアップ研修を実施いたしました。

また、入社時研修以降、監督職層研修まで社内研修を受講する機会が少ないことから、新たに初任職層を対象とした研修を企画・実施いたしました。

#### 【一般啓発、自己啓発制度】

社員の積極的な自己啓発や業務上必要な能力開発への支援を目的として、マネジメント、ビジネススキル、語学等の資格取得、個人のライフスタイルにかかわる内容など、それぞれの興味や必要に応じた教育制度を設けています。

#### 【資格取得一時金制度】

会社が指定する資格を取得した際に取得一時金を支給する制度です。

～資格例～

TOEIC、中国語検定、第一種衛生管理者、サステナブル経営／CSR検定、簿記、ITパスポート、マーケティング検定、日本化粧品検定、リテールマーケティング(販売士)検定、貿易実務検定、危険物取扱者、ボイラー整備士、食品保健指導士、品質管理検定、健康食品管理士 等

#### 【海外研修生派遣制度】

社員の語学修得及びその国の文化、歴史を通じて国際ビジネスマンとして精通する人材を育成するための制度を設けています。制度導入後6名の社員がこの制度を利用し活躍しています。

### 1on1ミーティング

人事考課面談とは別に上司と部下のコミュニケーションの充実、新たな成長機会を創出することを目的として、1on1ミーティングを実施しています。双方にコミュニケーションをとることで、新たな気付きが生まれ、社員の成長へとつなげています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

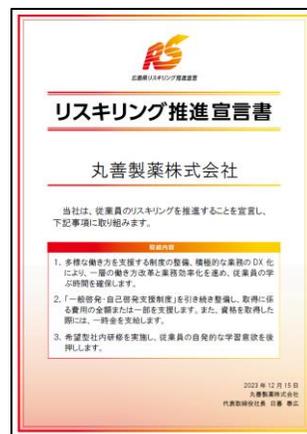
## 3) 人材育成

### リスキリングの推進

丸善製薬は、従業員が積極的に新しいスキルや知識を身につけ、急速な市場の変化や新たな技術、社会からの要求に対応できるよう、一人ひとりの成長をサポートいたします。従業員の能力向上により、組織として持続可能性を高めてまいります。2023年12月に広島県へ「リスキリング推進宣言」を行い承認されました。

～取組内容～

- 多様な働き方を支援する制度の整備、積極的な業務のDX化により、一層の働き方改革と業務効率化を進め、従業員の学ぶ時間を確保します。
- 「一般啓発・自己啓発支援制度」を引き続き整備し、取得に係る費用の全額または一部を支援します。また、資格を取得した際には、一時金を支給します。
- 希望型社内研修を実施し、従業員の自発的な学習意欲を後押しします。



### 【業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の総数と割合】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	381名	387名	397名	411名	425名
男性	277名	276名	284名	289名	292名
女性	104名	111名	113名	122名	133名
対象者の割合	93.2%	92.8%	94.1%	94.1%	94.4%
男性	96.2%	96.2%	97.6%	97.0%	96.7%
女性	86.0%	85.4%	86.3%	87.8%	89.9%

### 【従業員一人当たりの年間平均研修時間と教育研修費】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年間平均研修時間	11時間	8時間	8時間	12時間	12時間
教育研修費	110,774円	45,792円	58,664円	71,744円	69,672円

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 4.環境

環境負荷の低減に取り組み、自然と調和する持続可能な社会の実現に貢献します。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

# 1) 環境マネジメント

近年、世界では地球温暖化などの気候変動に伴うさまざまな地球規模の環境問題が深刻化し、人々の暮らしや企業の事業活動に影響を与えています。

2023年は、世界の平均気温の高さがさらに一段階酷いレベルへと突入したことを受けて、国連のグテーレス事務総長が「地球沸騰化の時代が到来した」という表現で警鐘を鳴らしました。

丸善製薬は、事業活動が直接または間接的に地球環境に影響を及ぼし、地球環境の変化が事業活動へ影響を及ぼすことを認識しています。地球環境負荷を低減する取り組みを推進していくため、2022年2月に取締役会での審議を経て、「環境方針」を策定いたしました。今後は、当方針のもと環境負荷低減の取り組みを推進し、継続的な改善を行いながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## 環境方針

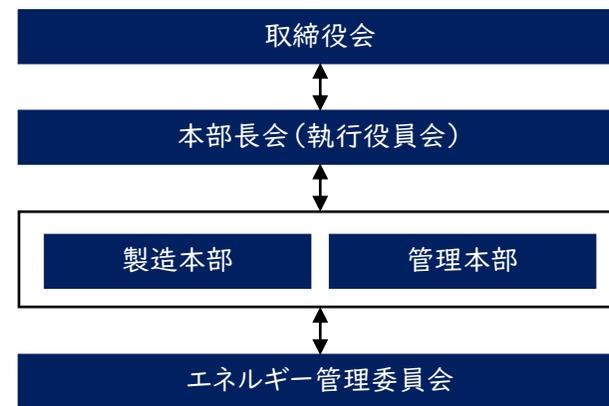
丸善製薬は、健康で豊かな生活を営むために、かけがえのない地球と限りある資源を次の世代に引き継ぐことが責務であることを認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進してまいります。

1. 生産から廃棄に至るまでの全過程において環境に及ぼす影響を十分に理解した上で、環境に配慮した製品開発と製造技術を推進します。
2. 環境保全活動を推進ならびに徹底するために環境マネジメントシステムを整備し改善していきます。
3. 事業活動に使用するエネルギーや水、原材料などは、温室効果ガスの排出削減および環境負荷の低減に配慮し効率的かつ持続可能とする使用を推進します。
4. 事業活動における廃棄物の削減とリサイクルを行うことにより省資源、省エネルギーに取り組めます。
5. 地域社会の一員として、生物多様性に配慮した事業活動を推進するとともに、環境保全活動への参加と社員の自主的な活動への支援に積極的に協力します。
6. 環境保全活動を推進するために社内体制の整備を行い、社員への周知徹底と意識高揚に努めます。
7. 関連する環境の法規制と当社が同意するその他の要求事項の遵守を約束します。

制定：2022年2月9日

## 環境マネジメント体制

丸善製薬は、「エネルギー管理委員会」において「省エネ推進」「CO2排出量（スコープ1、2）」「水使用量」「廃棄物量」などの環境目標の策定、進捗管理、評価を行い、「環境報告書」によって経営層レベルの責任者へ報告しています。



## 【エネルギー管理委員会構成】

経営層レベルの責任者	気候関連問題に精通した取締役
管理統括者	製造本部長
管理部署	製造本部署
エネルギー管理員	製造本部1名
エネルギー管理企画推進者	製造本部1名
事務局	管理本部1名
各事業所	本社工場1名 三次工場1名 新尾道工場1名 久井ファーム1名 総合研究所1名

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 1) 環境マネジメント

### 気候関連問題の管理に対するインセンティブと貢献

丸善製薬では、製造本部を中心に製造技術の向上と製造管理の徹底を目的とした小集団活動発表会（QC社内発表会）を実施しています。取締役を含む審査員が審査・表彰する制度となっており、従業員のモチベーション向上につながることを期待しています。

従来の「生産の効率化」「低コスト化」「売上・利益への貢献」といった財務視点の評価基準に加え、「脱炭素」「水使用量削減」「廃棄物削減」など環境負荷低減に関する非財務視点の評価基準が新たに導入されることとなりました。

### 気候変動におけるリスクと機会

2021年のIPCCによる第6次評価報告書では、「地球温暖化と人間活動の影響は疑う余地がない」と人間活動の関連性について初めて断定されました。

このまま化石燃料依存型のもとで気候政策を導入しない場合、21世紀末までに世界の平均気温が最大5.7℃上昇する可能性があるといわれています。

2015年のパリ協定では「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること」が掲げられました。

丸善製薬の事業全般にかかわる気候変動におけるリスクと機会の分析を行っています。

特定したリスクの中では、移行リスク（現在の規制・新たな規制）として、炭素税や排出量取引制度などの規制が強化された場合、財務的な影響を及ぼす可能性があることを確認しました。

物理的リスクの緊急性なものとしては、干ばつや洪水などの異常気象による自然災害の影響、慢性なものとしては、恒常的な気象の変動に伴う植物原料の安定調達への影響が大きいことを確認しました。

特定した機会の中では、気候変動の緩和と適応に貢献する低炭素・脱炭素への取り組み強化や自社商品・サービスの提供によって、企業価値や製品価値を高める機会獲得の可能性があることを確認しました。

気候シナリオ別（1.5℃、4℃）の分析の必要性については認識していますので、引き続き分析・検討を進めてまいります。

### 【リスクと機会】

リスク/機会	分類	項目	期間	内容
移行リスク	現在の規制 新たな規制	規制強化	中期	製品の製造工程において多くのエネルギーを使用していますので、低炭素・脱炭素、省エネルギー、省資源の製造技術が確立できていないと、炭素税や排出量取引制度などの規制が強化され財務的な影響を及ぼす可能性があります。対応策として省エネや太陽光パネルの設置、再生可能エネルギー電力の利用に取り組んでいます。
物理的リスク	緊急性	干ばつ	短期	製品の製造工程（抽出・洗浄など）において多くの水を利用しますので、水不足は事業に重大な影響を及ぼす可能性があります。対応策として水源確保のため給水槽の設置と定期的なメンテナンスを行っています。
		洪水	短期	近年増加傾向にある大型台風やゲリラ豪雨を要因とする洪水などは工場や製造設備、製品保管倉庫を浸水させる可能性があります。対応策として各工場では類似した製造設備を所有し代替生産対応が可能な体制をとっています。また本社工場の製品倉庫は防潮堤を設置しています。
	慢性	気候変動	長期	原材料の多くが天然や栽培された植物由来のものに依存していますので、気候変動に伴う雨量の変化は植物由来原料の調達に影響を及ぼす可能性があります。対応策として主要原料植物の十分な在庫確保、産地拡大や他の栽培地での育成研究を行っています。
機会	リソースの効率 エネルギー源	気候変動	中期	取引先のサステナビリティへの関心が高まり、低炭素・脱炭素への取り組みを強化することによって、企業評価の維持・向上は不可欠なものとなっています。省エネや太陽光パネルの設置、再生可能エネルギー電力を利用し、低炭素・脱炭素に取り組むことは企業価値を維持・向上させる機会と捉えています。
	商品 サービス	廃棄物	短期	取引先のサステナビリティへの関心が高まり、廃棄物削減への取り組みを強化することによって、企業評価の維持・向上、製品価値の向上が期待されます。原材料栽培地で廃棄される植物残渣を有効利用しアップサイクル商品を製造・販売することは企業価値の維持・向上、製品価値を向上させる機会と捉えています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) エネルギー消費と温室効果ガス

2023年11月30日から12月12日まで、アラブ首長国連邦(UAE)ドバイで開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)では、「1.5℃目標」を達成するためには、温室効果ガスを2030年までに43%、2035年までに60%の削減(2019年比)を必要とするIPCCの報告を受け、各国の削減対策の強化を求める決定がなされました。

最も注目されることは、「2030年までの世界の自然エネルギー設備容量3倍化」と「2050年ネットゼロに向けた化石燃料からの脱却」という目標が明記されたことです。

丸善製薬は、製品の製造工程や原料の調達、製品の輸送などバリューチェーン全体においてエネルギーを使用し温室効果ガスを排出しています。2010年に「エネルギー管理委員会」を発足し、生産拠点となる3工場(本社工場・新尾道工場・三次工場)を中心に「省エネ推進」「温室効果ガス排出量削減」に取り組み、環境負荷の低減に努めています。

引き続き、地球温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」に基づく長期戦略の策定および2050年ネットゼロ(カーボンニュートラル)への取り組みを通じて持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
環境負荷の低減	エネルギー消費量の削減	エネルギー消費量原単位換算で、2013年度比40%削減を目指します。	エネルギー原単位換算で、2013年度比20%削減を目指します。	7 7.2 12 12.2 13 13.2
	温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量の実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指します。	温室効果ガス排出量について、Scope1、2において2013年度比46%削減を目指します。Scope3において2027年までに排出量を把握し、2030年に向け削減していくことを目指します。	7 7.2 12 12.2 13 13.2

### エネルギー消費量・原単位

2023年度のエネルギー消費量は、52,175MWhとなり、対前年比3,654MWhの減少(対前年比6.5%減少、2013年度比8.7%増加)となりました。エネルギー消費量原単位は、34.90MWh/生産量†となり、対前年比2.54MWh/生産量†

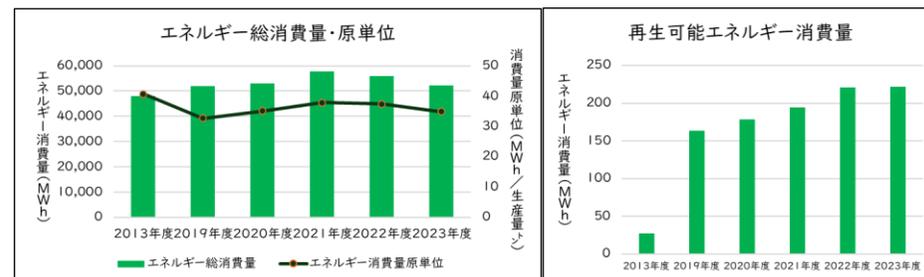
の減少(対前年比6.8%減少、2013年度比14.4%減少)となりました。

省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)の報告義務として「定期報告書」と「中長期計画書」を提出しています。

経済産業省エネルギー庁が設けている「省エネ法事業者クラス分け評価制度」においては、2018年度~2022年度まで省エネが優良な事業者として5年連続で「Sクラス」の評価を受けることができていましたが、2023年度は、重油からLNG(液化天然ガス)へ大きく燃料転換した2017年度が評価対象(過去5年)から外れたことによりSクラス評価を受けることができませんでした。

2023年度の再生可能エネルギー消費量は、222MWhとなり、エネルギー総消費量の0.43%を占めています。

### 【エネルギー総消費量・原単位の推移】



	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
エネルギー総消費量	47,991	51,972	52,979	57,773	55,829	52,175	MWh
非再生可能エネルギー	47,964	51,809	52,801	57,579	55,607	51,953	MWh
再生可能エネルギー	27	163	178	194	221	222	MWh
再生可能エネルギー比率	0.06	0.31	0.34	0.34	0.40	0.43	%
エネルギー消費量原単位	40.77	32.75	35.13	37.86	37.44	34.90	MWh/生産量†
生産量	1,177	1,587	1,508	1,526	1,491	1,495	†

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) エネルギー消費と温室効果ガス

### 温室効果ガス (GHG) 排出量・原単位

2023年度の自社温室効果ガス排出量(スコープ1+2)は、マーケット基準において11,172t-CO<sub>2</sub>となり、対前年比295t-CO<sub>2</sub>の増加(対前年比2.7%増加、2013年度比4.7%減少)となりました。

スコープ1排出量は、4,482t-CO<sub>2</sub>となり、対前年比103t-CO<sub>2</sub>の増加(対前年比2.4%増加、2013年度比6.1%減少)となりました。

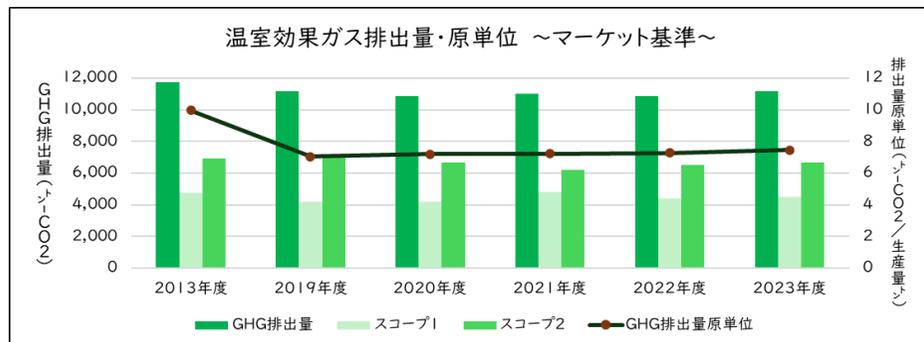
スコープ2排出量は、6,690t-CO<sub>2</sub>となり、対前年比193t-CO<sub>2</sub>の増加(対前年比3.0%増加、2013年度比3.7%減少)となりました。

自社温室効果ガス排出量原単位は、7.47t-CO<sub>2</sub>/生産量tとなり、対前年比0.18t-CO<sub>2</sub>/生産量tの増加(対前年比2.5%増加、2013年度比25.0%減少)となりました。

引き続き、低炭素燃料への転換や生産の効率化、環境に配慮した設備の導入、再生可能エネルギーの利用などに取り組み、省エネ、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。

2023年度は、スコープ3排出量の算定に取り組みました。環境省が提供する「排出原単位データベース」を使い、15のカテゴリの内、カテゴリ1(購入した製品・サービス)、2(資本財)、3(燃料・エネルギー関連)、5(事業から出る廃棄物)、6(出張)、7(雇用者の通勤)について過去5年分を算定いたしました。

### 【温室効果ガス排出量・原単位の推移】



### ～ロケーション基準～

ロケーション基準	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
スコープ1排出量	4,773	4,205	4,189	4,813	4,379	4,482	t-CO <sub>2</sub>
スコープ2排出量(ロケーション)	5,723	5,095	5,077	5,167	5,233	5,322	t-CO <sub>2</sub>
スコープ3排出量	-	49,223	38,264	44,190	44,379	51,374	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量(スコープ1+2,ロケーション)	10,496	9,300	9,266	9,980	9,613	9,804	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量(スコープ1+2+3,ロケーション)	-	58,523	47,530	54,169	53,991	61,178	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量原単位(スコープ1+2,ロケーション)	8.91	5.86	6.14	6.54	6.45	6.56	t-CO <sub>2</sub> /生産量t
GHG排出量原単位(スコープ1+2+3,ロケーション)	-	36.88	31.52	35.50	36.21	40.92	t-CO <sub>2</sub> /生産量t
生産量	1,177	1,587	1,508	1,526	1,491	1,495	t

### ～マーケット基準～

マーケット基準	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
スコープ1排出量	4,773	4,205	4,189	4,813	4,379	4,482	t-CO <sub>2</sub>
スコープ2排出量(マーケット)	6,946	6,976	6,647	6,203	6,497	6,690	t-CO <sub>2</sub>
スコープ3排出量	-	49,223	38,264	44,190	44,379	51,374	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量(スコープ1+2,マーケット)	11,718	11,181	10,836	11,015	10,877	11,172	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量(スコープ1+2+3,マーケット)	-	60,404	49,100	52,205	55,255	62,546	t-CO <sub>2</sub>
GHG排出量原単位(スコープ1+2,マーケット)	9.96	7.05	7.19	7.22	7.29	7.47	t-CO <sub>2</sub> /生産量t
GHG排出量原単位(スコープ1+2+3,マーケット)	-	38.06	32.56	36.18	37.06	41.84	t-CO <sub>2</sub> /生産量t
生産量	1,177	1,587	1,508	1,526	1,491	1,495	t

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

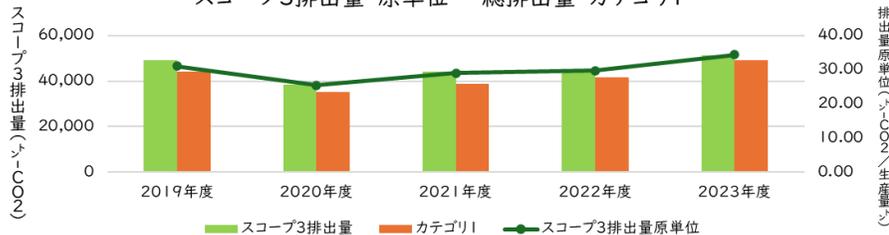
コミュニティへの  
参画及び発展

## 2) エネルギー消費と温室効果ガス

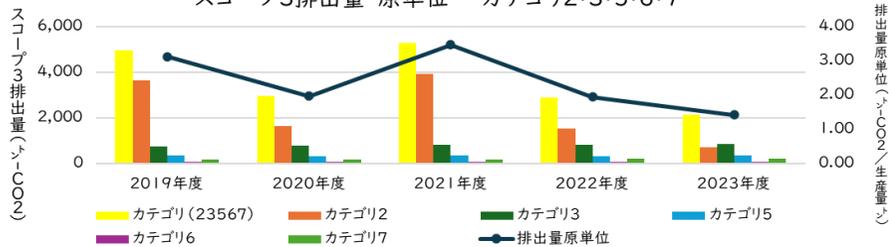
～スコープ3排出量～

スコープ3排出量	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
カテゴリ1_購入した製品・サービス	-	44,264	35,303	38,889	41,483	49,249	t-CO2
カテゴリ2_資本財	-	3,650	1,649	3,915	1,510	705	t-CO2
カテゴリ3_燃料・エネルギー関連	-	752	778	814	822	829	t-CO2
カテゴリ5_事業から出る廃棄物	-	329	301	335	318	339	t-CO2
カテゴリ6_出張	-	53	54	55	57	59	t-CO2
カテゴリ7_雇用の通勤	-	174	179	181	189	194	t-CO2
カテゴリ(1・2・3・5・6・7)排出量	-	49,223	38,264	44,190	44,379	51,374	t-CO2
カテゴリ(2・3・5・6・7)排出量	-	4,959	2,961	5,300	2,896	2,125	t-CO2
カテゴリ(1・2・3・5・6・7)原単位	-	31.02	25.37	38.96	29.76	34.36	t-CO2/生産量†
カテゴリ(2・3・5・6・7)原単位	-	3.12	1.96	3.47	1.94	1.42	t-CO2/生産量†
生産量	1,177	1,587	1,508	1,526	1,491	1,495	t

スコープ3排出量・原単位 ～総排出量・カテゴリ1～



スコープ3排出量・原単位 ～カテゴリ2・3・5・6・7～



### 低炭素燃料への転換

工場設備の稼働に利用する燃料を重油からLNG(液化天然ガス)へ転換することにより、低炭素化を推進しています。

三次工場に続き、新尾道工場、本社工場においても大型設備導入を機に燃料転換の検討を進めてまいります。

### 生産の効率化

QC活動から波及した取り組みとして、製造技術の向上と製造管理の徹底によって高効率な生産活動を常に追求し続けています。年1回開催される社内発表会では表彰制度が設けられており従業員のモチベーション向上につながっています。

2023年度は、社内発表会は実施されませんでした。2024年度より新たな評価基準としてSDGs貢献の視点や「脱炭素」「水使用量削減」「廃棄物削減」といった非財務視点の基準が加わり、生産の効率化と環境負荷低減の両立に取り組んでまいります。

### 環境に配慮した設備の導入

丸善製薬では温室効果ガス排出量の削減に向けて、環境に配慮した設備導入を推進しています。

2023年度は、三次工場に次世代節電ユニットECOMOを設置、総合研究所では空調機器ならびに超低温倉庫(-80℃タイプ)を省エネ型に更新いたしました。

また、全ての事業所において随時照明設備をLED照明へ切り替え、省エネルギーに取り組んでいます。

### 再生可能エネルギーの利用

新尾道工場、本社分析センター、本社製造事務所棟(プロトピアビル)では自家消費型の太陽光発電設備を設置し発電を行っています。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 2) エネルギー消費と温室効果ガス

太陽光により発電された電力を従業員厚生棟や定温倉庫などの電力として利用しています。

久井ファームでは、再生可能エネルギー比率100%の電力を利用しています。他の事業所においても切り替えを検討してまいります。

三次工場では、工場内における再生可能エネルギーの利用を推進するため、設備における初期投資や維持・管理の負担がないPPAモデル（Power Purchase Agreement）による太陽光発電設備の導入を検討しています。



新尾道工場太陽光発電設備

### 大気汚染防止

大気汚染は人の健康や植物、生態系へ影響を及ぼし、窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）などの大気汚染物質がぜんそくなどの疾患の有症率を高めることが知られています。大気に放出される汚染物質の量や濃度は行政により規制されています。

丸善製薬は、ばい煙処理機能を備えた小型貫流ボイラーを設置するなどの対策をとり、排ガス中のばいじん、窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）の処理・削減を行っています。環境測定を行い、大気汚染防止法などの法律や法令を遵守した活動を行っています。

### 尾道COOL CHOICEプロジェクトへの賛同

丸善製薬は、環境省が中心となって進めている地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に対して、尾道市が取り組みを推進している「尾道COOL CHOICEプロジェクト」に賛同、登録しています。CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の事業活動の中で貢献してまいります。

#### ★尾道COOL CHOICEプロジェクト★

<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/15/32546.html>

## 3) 水

水は人々の生命や生活を支える上で貴重な資源です。自然の恵みを受けて新たな価値観につないでいくことを事業とする丸善製薬にとって欠かすことのできない資源です。

丸善製薬は、原料の抽出や設備の洗浄など製品の製造工程において水を使用・排出しており、水資源の問題は重要な環境課題と認識しています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応する SDGs
環境負荷の低減	水使用量の削減と排水管理	サプライヤーでの環境負荷低減の技術支援を実施し、サプライチェーン全体として水の管理を進めます。	水資源使用原単位数(取水量)について、2013年度比10%削減を目指します。	  

水資源の危機に直面している地域を特定するためにWWFの「Water Risk Filter」や国土地理院の「ハザードマップポータルサイト」を利用し水不足や水質、洪水、高潮などの水ストレスの評価を行っています。

生産拠点地域の取水においては、水ストレスの低い地域からの取水であることを確認していますが、本社工場と新尾道工場の水源については極度な渇水状態となった場合に安定的な取水が困難となるため、貯水や工場間の水の移送等の対策をとっています。

### 水会計

2023年度の総取水量は306MLとなり対前年比9MLの増加(対前年比3.0%増加、2013年度比4.1%減少)、総排水量は260MLとなり対前年比9MLの増加(対前年比3.6%増加、2013年度比9.7%減少)、水消費量は46MLとなり、対前年比増減なし(2013年度比43.75%増加)となりました。

水消費量原単位は0.031ML/生産量t、対前年比増減なしの結果となりました。循環式冷却設備(冷水ユニット、冷却塔)を利用し、水を再利用することで水使用量の節約に努めましたが、水消費量および水消費量原単位は増加する結果となりました。2023年度は、総合研究所に自動洗浄機を導入して、器具の洗浄に必要な水の消費量削減に取り組みました。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

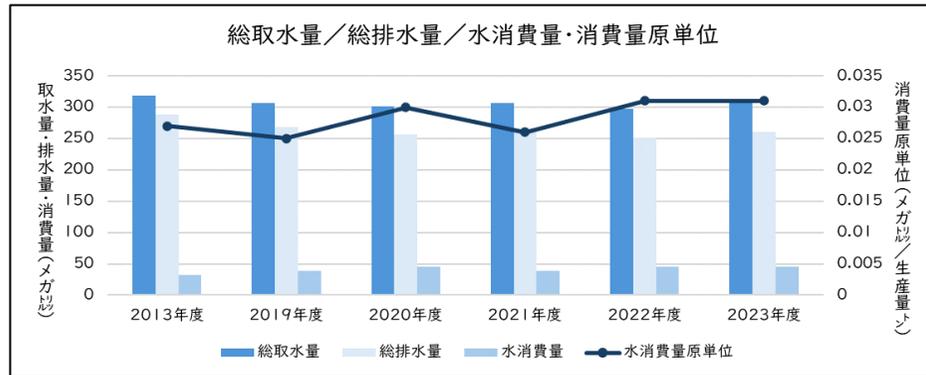
公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 3) 水

### 【総取水量／総排水量／水消費量・消費量原単位の推移】



	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
総取水量	319	307	302	306	297	306	ML
地表水	1	1	1	1	1	1	ML
地下水	1	1	3	2	3	1	ML
海水	203	169	167	166	158	161	ML
生活随伴水	0	-	-	-	-	-	ML
第三者の水(上水)	115	136	131	137	135	143	ML
総排水量	288	268	257	267	251	260	ML
地表水	55	76	68	76	70	75	ML
地下水	0	-	-	-	-	-	ML
海水	232	192	189	191	181	185	ML
生活随伴水	0	-	-	-	-	-	ML
第三者の水(上水)	0	-	-	-	-	-	ML
水消費量	32	39	45	39	46	46	ML
水消費量原単位	0.027	0.025	0.030	0.026	0.031	0.031	ML/生産量†
生産量	1,177	1,587	1,508	1,526	1,491	1,495	†

### 排水管理

排水の汚染物質を削減するために排水処理設備を完備し、微生物による浄化処理を行った上で徹底管理のもと排水しています。定期的に広島県の水質評価検査を受け、排水中の汚染物質(COD、窒素、リン)の総重量について測定し、排水基準内の評価を受けております。

管理基準については、1971年に施行された「水質汚濁防止法」、1973年に制定された「瀬戸内環境保全特別措置法」(瀬戸内法)のもと水質を管理しています。引き続き、製造用水の節水、徹底した排水管理などを行い事業活動における水消費量の削減、水質汚濁防止法、瀬戸内法に基づいた排水管理に取り組んでまいります。

### 【水中排出汚染物質総重量】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
水中排出汚染物質総重量	1.57	1.09	1.69	1.44	0.84	†

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 4) 廃棄物

丸善製薬は、製造過程において廃棄物を排出しています。廃棄物の多くは植物を抽出した後に生じる抽出残渣や各工場の排水に含まれる汚泥、ろ過工程で使用する珪藻土などです。

廃棄物の削減に取り組む事は事業活動に必要な資材やエネルギー資源を効率的に活用することにつながり、環境保全活動全般に寄与する重要な取り組みです。

またサーキュラーエコノミーの浸透に伴い、廃棄物の削減、資源の再利用の重要性は今後ますます高まると認識しています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
環境負荷の低減	廃棄物発生量の削減	5R (Reduce<削減>、Reuse<再利用>、Recycle<再資源化>、Renewable<持続可能な資源の活用>、Repair<修理して使う>)を推進し廃棄物の排出ゼロを目指します。	マテリアルフロー分析を実施し、廃棄物発生量の削減を進めます。 Reduce:プラスチック使用量の削減 Renewable:抽出原料残渣の100%有効利用化(堆肥化/燃料化/飼料化)	

### 抽出残渣の有効利用

丸善製薬は環境負荷を低減するとともに、自社で有用植物原料の試験栽培を行うため、2007年広島県三原市に農地約75,000㎡の久井ファームを設立しました。

久井ファームでは、植物エキスの製造過程で発生する抽出残渣(植物から有用成分を取り出した後の残留物)を焼却処分せず、発酵させて堆肥化し、新たな有用植物の栽培に用いる「循環型農法」を取り入れています。

焼却処分を行わずに堆肥として再利用することで、廃棄物の削減だけでなく、焼却処分時に発生するCO2排出の削減や農地土壌を吸収源とする炭素貯留などによって、環境負荷低減への貢献が期待できます。バイオマス燃料としての活用に加え、引き続き抽出残渣の有効利用について検討してまいります。

2023年度は、抽出残渣をより効率的に処理し堆肥化できるよう堆肥場改修工事に着工したため、残渣の久井ファーム搬入量は減少いたしました。

### 【抽出残渣の久井ファーム搬入量】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
抽出残渣搬入量	901	861	918	729	209	t



久井ファーム全景

堆肥場内(抽出残渣の堆肥化)



堆肥場

堆肥場(太陽光発電設備)

### 汚泥処理

工場排水に含まれる汚泥処理のために微生物処理を行い下水放流基準値以下に処理して排水しています。排水槽の環境維持のため微生物に好気呼吸の代謝を行わせる装置を設置し、容積負荷率の引き上げ、汚泥減容効果向上、散気効率を高めています。装置の設置により排水設備の負荷が低減され、消費電力の削減にもつながっています。

2023年度は、三次工場において更なる汚泥削減、節電を目的として、より高度な処理能力をもつ微生物の探索と導入検討に着手いたしました。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 4) 廃棄物

### 珪藻土処理

事業活動の規模拡大により、ろ過工程でろ材として利用する珪藻土の使用量が増加しています。珪藻土を含むろ過残渣は堆肥化を進める上で障害となることから現在は外部施設による廃棄処理を行っています。

今後はろ過残渣の全量リサイクルを目指した処理方法の検討や珪藻土を利用しないろ過方法の検討が必要と考えています。また、様々な種類の残渣を扱うようになり、堆肥化の条件が十分に確立されないままこれらの残渣を保管することで、腐敗臭の発生に対する近隣住民からの苦情も寄せられていました。

一時的に外部施設による処理を行うことでこれらの苦情解決に至っておりますが、将来的な課題解決に向けて堆肥場施設を改修し堆肥化条件確立のための検討を行っています。

### 包装資材

製品の包装は、廃棄物削減のため簡易的な包装を導入しています。製品の多くは外装を段ボール箱とし、その内装材にプラスチック製包装資材を使用しています。プラスチックにおける課題については認識しており、さらなる削減の取り組みが必須であると考えています。

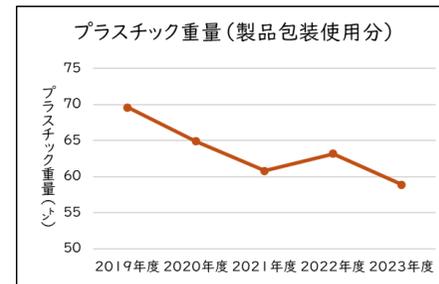
包装資材には、製品の品質保持や情報提供などの役割がありますので、今後、こうした役割を担保した上で、資源の枯渇や海洋プラスチック問題を意識しながら、プラスチック使用量の削減や植物由来・再生由来プラスチック容器の使用などの取り組みについて検討し、環境負担の低減に貢献してまいります。

2023年度は、包装資材に使用されているプラスチックの重量と由来を確認し、全ての包装資材が化石燃料を起源として製造されたものであることを確認いたしました。引き続き包装資材以外に使用されているプラスチックの由来や重量の把握に努めてまいります。

### 【プラスチック重量（製品包装使用分）】

2023年度は、包装資材に使用されているプラスチックの重量と由来を確認し、化石燃料を起源として製造されたものであることを確認いたしました。

引き続き包装資材以外に使用されているプラスチックの由来や重量の把握に努めてまいります。



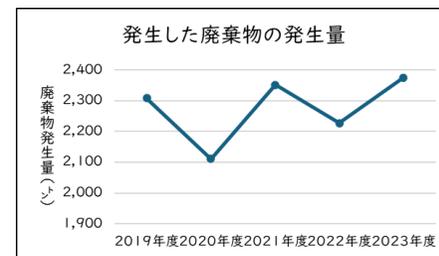
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
プラスチック重量	69.6	64.9	60.8	63.2	58.9	†

\*製品販売に使用される包装資材のみの重量

### 廃棄物管理

#### 【発生した廃棄物の発生量】

総合研究所や品質管理部門では研究や検査にともない多種多様な廃棄物が発生いたします。これらの廃棄物は分別を徹底して、専門の処理業者に委託して適切に処分しています。



	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
発生した廃棄物の発生量	2,309	2,111	2,352	2,228	2,376	†
処分されなかった廃棄物の重量	0	0	0	0	0	†
有害廃棄物	0	0	0	0	0	†
非有害廃棄物	0	0	0	0	0	†
処分された廃棄物の重量	2,309	2,111	2,352	2,228	2,376	†
有害廃棄物	2	2	3	2	2	†
非有害廃棄物	2,307	2,109	2,349	2,226	2,374	†

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 5) 生物多様性

### 「甘草」のサステナブル調達への取り組み

甘草は丸善製薬にとって重要な植物資源です。将来の甘草の保護と安定的な調達のために30年来の学術的交流がある中国科学院 華南植物園と甘草栽培の共同研究に取り組んでいます。オーストラリアの自社農園（現在は閉鎖）で培ってきた約20年間の栽培経験による種苗生産、幼苗育成、栽培管理方法などのノウハウを活かし、優良系統を栄養繁殖した種苗を用いて商業的規模の栽培試験を実施してまいりました。

2023年度は、選抜された優良系統由来の培養苗（ストロン）を用いて原料栽培を開始しました。

ストロン定植後の萌芽率と育成状況がいずれも良好であり、今後（2024年度秋以降）、甘草根の収穫を予定しています。

甘草に続き、他の植物原料についても「買う」から「育てる」の原料調達への移行検討を進めてまいります。



### 生物多様性条約・名古屋議定書に基づく遺伝資源へのアクセス対応

生物多様性条約は、生物多様性の保全および持続可能な利用を目的として1992年5月に国連で採択され、1993年12月に発効された国際条約です。

2010年には生物多様性条約の実効性を高めるための国際的なルールとして名古屋議定書が採択されました。

日本では、2017年に名古屋議定書の締約国となり、従来に比べて生物多様性条約に対してより一層の注意が必要となりました。

丸善製薬は、お客様に安心して製品をご利用いただくために、原料提供国の法令を遵守した遺伝資源の利用に努めています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 5.公正な事業慣行

お取引様との信頼関係を大切に、公正・透明・自由な競争と適正な取引を行います。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) 腐敗行為の防止

丸善製薬は、「企業倫理方針」と「行動規範」を定め、コンプライアンス経営の推進に取り組んでいます。

「企業倫理方針」とは、企業倫理と法令遵守に対する当社の基本的な考え方をまとめたものであり、「行動規範」とは、この方針を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

2024年1月に取締役会での審議を経て、「企業倫理方針・行動規範」を策定いたしました。これらの考え方を社内で共有し、実践することで、お客様・社会から信頼される企業を目指してまいります。

### 企業倫理方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。この実現のために「企業倫理方針」を策定し、法令や社会ルールおよびその精神を理解し遵守するとともに、社会倫理を尊重し社会的責任を果たしてまいります。

#### ■お客様に対して

お客様のニーズと社会課題の解決を見据えた商品の供給に努めます。  
サプライチェーンにおいて倫理的な調達を行います。  
情報セキュリティに努めます。

#### ■社会に対して

遵法に徹して公正な企業活動を行い、適切な情報開示を行います。  
持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した事業活動を実施します。  
社会の多様性に対応し、地域社会とのコミュニケーション活動を推進します。

#### ■従業員に対して

全従業員の人権を尊重する活動を推進します。  
スキルアップを支援し、従業員が最大限に能力を発揮できるよう努めます。  
安全で快適な職場環境を整え、生産性を高めます。

制定：2024年1月19日

### 行動規範

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

「行動規範」は、「企業倫理方針」を踏まえて全ての役員と従業員のとるべき行動や判断基準を示したものです。

世界が直面する環境課題および社会課題の解決がより重要になると考え、事業に関わる全ての皆様と将来の地球環境と社会に対して責任を持って日々の事業活動に取り組んでまいります。

#### 1. 社会への貢献

- ・社会に貢献し、持続可能な発展に努めることを使命とします。
- ・公正・透明性・誠実さ・信頼性など、重要な価値観を尊重します。
- ・素材探索から製品開発まで、分析技術と最先端の評価技術でお客様の声にお応えするとともに、社会課題の解決を見据えた商品の開発に努めます。
- ・お客様の満足度向上に貢献できるよう、安全・安心を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- ・事故や不良品が発生した時は、迅速に情報開示・安全対策等の対応を行います。
- ・地域社会への貢献を重視し、コミュニケーション活動を推進します。
- ・ボランティア活動や社会貢献活動に積極的に参加します。

#### 2. 公正な企業活動

- ・各国・地域で定められた事業に関するすべての法令・規制・社会規範を遵守します。
- ・反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- ・独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- ・会社利益と相反する行為を行いません。
- ・取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) 腐敗行為の防止

### 3. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- ・コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- ・事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- ・他者の知的財産権を侵害しません。

### 4. 環境への配慮

- ・事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。
- ・研究・開発の段階から製品が環境に及ぼす影響を評価し、環境保全に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ・持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用状況を確認し、利用効率の改善を図ります。
- ・事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- ・化学物質の管理を徹底し、大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- ・有害物質の使用削減、廃棄物の削減、処理、処分の適正化や有効利用を推進します。
- ・生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。
- ・持続可能な調達をかなえるために環境保全に配慮した調達活動を行います。

### 5. 人権と多様性の尊重

- ・個人の人権と多様性を尊重します。
- ・基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- ・いかなる形態の現代奴隷・あらゆる強制労働を一切認めません。

- ・児童の道徳、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- ・精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。
- ・持続可能な調達をかなえるために社会面に配慮した調達活動を行います。

### 6. 労働慣行と人材育成

- ・事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- ・従業員の健康と安全を第一に考え、健全で働きやすい職場環境づくりと安全の確保に努めます。
- ・従業員と従業員の家族の仕事と私生活の充実のためにワークライフバランスの推進に取り組みます。
- ・結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、従業員の権利を尊重します。
- ・従業員に教育の機会を提供し、一人ひとりの適性、価値観に配慮した能力開発・自己実現を支援します。
- ・成果や能力を踏まえて、公平・公正・透明かつ意欲向上につながる人事制度を導入します。

制定：2024年1月19日

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) 腐敗行為の防止

### 汚職防止／公正な競争

丸善製薬は、贈収賄、利益相反、詐欺行為、マネーロンダリング、不正商取引を行いません。

経済のグローバル化の進行に伴い、国内だけではなく国際間の商取引においても、腐敗防止の要請は高まり、規制も強化されています。

公務員・政治家に対する贈収賄、利益相反、詐欺行為、マネーロンダリング、不正商取引は認めず、公正な競争に取り組みます。

### 反社会的勢力との関係遮断

丸善製薬は、社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然とした対応を貫きます。

従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

### 【腐敗行為（汚職・贈収賄）に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	409名	417名	422名	437名	450名
受講者数	28名	18名	20名	23名	12名
受講率	6.8%	4.3%	4.7%	5.3%	2.7%

## 2) 持続可能な調達

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかり繋ぐことで社会の発展に貢献するために「持続可能な調達方針」を策定し、サプライヤーの皆様からのご支援、ご協力のもと調達活動を実施しています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	持続可能な調達	全ての原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	主要原料についてサプライヤーとの協働によって「持続可能な調達方針」を推進し、児童労働や強制労働等の人権・労働問題や環境破壊等を許さない持続可能な調達を目指します。	

### 持続可能な調達方針

丸善製薬は、すべてのサプライヤーからのご支援、ご協力のもと、持続可能な社会の実現への貢献を目指し、社会・環境面に配慮した調達活動を実施します。

#### 1. 品質本位

自社の品質方針に準拠し、品質、安心、安全を優先した原材料の調達を行います。

#### 2. 公正・公平性

サプライヤーの選定においては、品質、価格、納期、取引条件、保有技術、サービス能力、協力度、安定調達、CSRへの取り組み等の観点から総合的な評価により行います。また2社以上のサプライヤーからの競争見積りを原則として、公平な参入機会を提供します。

#### 3. 遵法・倫理

社会の常識、関連する法令や倫理を含む会社の諸規程を遵守し、公正で良識ある調達活動を行います。またいかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。

## 2) 持続可能な調達

### 4. 協働

サプライヤーとの良好なコミュニケーションのもと、相互理解、信頼関係の構築により、社会の健全な発展を目指します。

### 5. 人権

強制労働、児童労働、差別、非人道的扱いを支援することはありません。基本的人権を尊重し、労働環境、安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

### 6. 環境

人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全のために、関係する法令を遵守し、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生する調達活動を実践します。

### 7. 情報セキュリティの保持

調達活動に関わる機密情報及び個人情報に関係する法令を遵守厳重に管理します。

制定：2020年12月9日  
改定：2022年2月9日

## CSR関連の認証

### 【RSPO加盟・認証取得】

丸善製薬は、持続可能な原材料調達の取り組みとして、2021年9月にRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil/持続可能なパーム油のための円卓会議)へ加盟し、2023年12月に新尾道工場においてRSPO認証を取得いたしました。

引き続き、「持続可能な調達方針」のもと、各種認証の仕組みを活用し持続可能な調達推進に取り組んでまいります。

## CSR調達の意識啓発

原材料調達や製造委託に関わる従業員に対して、CSR調達活動や持続可能な調達方針の趣旨について教育を実施しています。

方針に基づいたCSR調達活動を具体的に推進するために外部研修を受講し、さらに外部研修を受講した従業員が講師となって社内研修を実施することで、より理解を深める取り組みとしています。

2023年度は、ESG推進部門が講師となり、調達に携わる部門となる購買部8名全員を対象に社内研修を実施しました。

### 【責任ある資材調達に関する研修実績】

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者数	7名	6名	6名	6名	8名
受講者数	0名	1名	2名	1名	8名
受講率	0%	16.7%	33.3%	16.7%	100%

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

### 3) サプライチェーンマネジメント

近年、企業のグローバル化、多角化が進み、多様な取引先がビジネスパートナーとなる中で、CSR（企業の社会的責任）を認識し、サプライチェーン全体でその責任を果たすべきという考え方が急速に広がっています。

丸善製薬は、サプライヤーの皆様とともに取り組む姿勢を明確にするため、2020年12月に「持続可能な調達方針」を策定（2022年2月に改定）し、2022年2月に「サプライヤー行動規範」を策定いたしました。

これはサプライヤーの皆様にも人権・労働・環境・腐敗防止などに配慮していただき、サプライチェーン全体でCSR意識を向上させていくためのガイドラインです。

今後も引き続きサプライヤーの皆様とのコミュニケーションを活発化させながら、持続可能な調達活動を推進してまいります。

#### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年・2049年)	2030年目標	対応するSDGs
持続可能な調達とサプライチェーンマネジメント	サプライチェーンマネジメント	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	「サプライヤー行動規範」に沿って、国内外のサプライヤーへのモニタリング調査を実施し、サプライチェーン全体における人権・労働・環境等の課題の把握と対応を目指します。	

#### サプライヤー行動規範

##### 1. 品質と安全性の確保

- (1) 安全を最優先とした商品・サービスの提供に努めます。
- (2) 事故や不良品が発生した時は、情報開示、安全対策等の対応を行います。

##### 2. 法令・社会規範の遵守

- (1) 各国・地域で定められた事業に関する法令と社会規範を遵守します。
- (2) 取引先、政治、行政、その他事業関係者と公正な関係を保ち、汚職、贈収賄、不正、詐欺行為など不適切な利益の供与、受理を行いません。
- (3) 反社会的勢力やマネーロンダリングなどの違法行為に携わる者とは、一切の関係を持ちません。
- (4) 独占禁止法などの関連する法令を遵守し、公正で公平な取引を行います。
- (5) 会社利益と相反する行為を行いません。

##### 3. 人権の尊重

- (1) 個人の人権と多様性を尊重します。
- (2) 基本的人権を尊重し、国籍・出身地域・言語・人種・民族・宗教・思想・年齢・障がい・性別・性自認・性的指向・雇用形態・配偶者の有無・妊娠等の理由による雇用・採用・昇進などの差別や、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
- (3) いかなる形態の現代奴隷も一切認めません。
- (4) あらゆる強制労働を一切認めません。
- (5) 児童の道德、健康、安全を損なうような就労を防止し、就業年齢に満たない児童労働を撤廃します。
- (6) 結社の自由と団体交渉に関する法令を遵守し、労働者の団結権や団体交渉の権利を尊重します。
- (7) 自らの事業活動において適用される労働時間と賃金に関する法令を遵守します。
- (8) 精神的または肉体的苦痛を有する言動やあらゆるハラスメントを行いません。

##### 4. 環境への配慮

- (1) 事業活動が環境に負荷を与えることを念頭に、環境の保全を考慮し関連法令・規制を遵守します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

### 3) サプライチェーンマネジメント

- (2) 持続可能な資源利用のため、定期的にエネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の利用効率の改善を図ります。
- (3) 廃棄物の削減、処理処分の適正化や有効利用を推進します。
- (4) 事業活動全体を通して省エネルギーに努め、再生可能エネルギーの利用を促進し、温室効果ガスの発生抑制に努めます。
- (5) 大気や水、土壌などの汚染防止に努めます。
- (6) 生物多様性を尊重し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。

#### 5. 情報セキュリティと個人情報・機密情報・知的財産権の保護

- (1) コンピュータネットワーク上の脅威に対する防御策及び人的要因による過失から情報を守るための対策を講じ、定期的に確認を行います。
- (2) 事業活動を通じて入手した顧客、第三者、従業員、その他すべての個人情報及び取引上の情報や技術情報を適切に管理します。
- (3) 他者の知的財産権を侵害しません。

#### サプライヤーとのCSR協働およびエンゲージメント

##### 【原料別CSR質問票・サプライヤーアンケートの実施】

2023年度は、主要な購入原材料ごとに「CSR質問票」をお送りし、依頼品目の約76%にあたる原材料について回答をいただくことができました。

また、仕入総額の約76%にあたるサプライヤー様へ「持続可能な調達方針」「サプライヤー行動規範」ならびにグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)の「CSR調達セルフ・アセスメント質問表」について案内し、すべてのサプライヤー様から当社の持続可能な調達活動にご理解、ご協力いただけるとの回答をいただくことができました。

### 4) 財産権の尊重

丸善製薬は、「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けたいという企業理念のもと、知的財産権を積極的に取得し活用する事で、自社の事業を保護すると同時に、毎年、営業・研究開発員へ社内研修を実施し、第三者の知的財産権を尊重する風土・体制づくりに努めています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 6.消費者課題

自然からの恵み(有用性)を、独自の技術により、安心・安全でお客様に満足頂ける高品質な製品として安定提供します。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) 品質保証

丸善製薬は、お客様が求める高い品質の製品を安定して提供することに注力しています。

お客様の満足度向上のために品質全般を保証・統括する部署を設けて、市場に送り出す製品の品質確保と向上に継続して取り組んでいます。

### 品質方針

丸善製薬は、自然の恵みを、多様な手段によってお客様、社会、そして未来へとしっかりつなぐことで社会の発展に貢献します。

この実現のために「品質方針」を策定し、『顧客満足度向上』ならびに『会社信頼度向上』の実現に取り組みます。

1. 人々の健康と美の実現を願って抽出道を究め、国内外のお客様のニーズと信頼に応える製品を提供します。
2. お客様に「安心・安全」な製品を「安定的」に提供する事を使命とし、品質の確保と向上に取り組めます。
3. 適用される法令・規制要求事項の遵守を基本とし、社会的要求事項に応えます。
4. 品質マネジメントシステムを運用し、その有効性の継続的な改善により信頼性の向上に努めます。

制定：2022年2月9日

### 品質保証体制

丸善製薬の品質保証・統括部門として、工場ごとに品質管理を行う部署を設けており、製品品質を確保するために自社にて設定した製品規格に適合しているか試験検査を実施しています。主力である医薬甘草系製品は、GMPを遵守した工場で製造しています。

2001年3月に三次工場および関連部門では品質マネジメントシステムである国際規格:ISO9002:1994の認証を取得し、現在はISO9001:2015の認証を維持し、お客様に満足していただける品質保証体制を整えています。

### 分析技術と品質検査

最新分析技術の製造への導入を常に意識し、生物活性評価や薬理、活性成分の単離や抽出技術の解明などの研究はすべてこの分析技術がベースとなっています。

製品品質の確保と顧客サービスの向上を目指して、品質検査（原料検査、工程品検査、製品検査など）に関する教育・訓練を受けた検査員が、市場に送り出す製品の品質クレームゼロを目標として、適切な試験の実施に努めています。

原料から製品出荷まで、お客様のあらゆるご要望にお応えし、安心してご使用いただける最高の品質をお届けします。

### 製品情報提供

お客様のご要望に応じた納品仕様書作成をはじめ、製品に関する情報を集約し、迅速に提供いたします。

### ハラール認証

丸善製薬では、ムスリム向けの製品開発にも対応できる様、ハラール認証を取得した製品を提供しています。

グリチルリチン酸ジカリウム、マタタビ抽出液BG30、レモンバームエキスRA、β-グリチルレチン酸、シーオーグレチノール、和ism<sup>®</sup>シリーズ（アシタバ、ウメ、ウンシュウミカン、ガイヨウ）の計9品目が認証を取得しています。



トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 1) 品質保証

### 製品の安全性管理

製品の安全性については、開発・設計段階から原料の調達も含めて検討を行い、環境への影響や人の健康に対するリスクなどの評価を行います。

### 内部監査

各工場を対象とした製品品質及び製造環境を考慮した内部監査を年1回実施しています。

内部監査員は品質保証部門から選任し、教育を施した後に監査を実施します。部外者として工場監査を実施することにより、普段気付いていなかった業務遂行上の改善に役立っています。

また指摘事項は他工場に対しても水平展開を行い、全工場として継続的な改善を図っています。

### 5Sの徹底

本社・新尾道・三次の各工場においては、工場ごとに安全衛生委員会を設けており、従業員の労働安全を念頭として月1回の安全衛生パトロールと会議を実施して、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に基づく衛生管理の徹底化を図っています。

工場内の衛生管理は、製造する全ての製品の安全確保の基本であり、異物混入や微生物汚染の防止に役立っています。

上質で清潔な設備を維持することで、質的にも量的にも確実に品質を守り、お客様のご要望にお応えします。



## 2) 製品開発

丸善製薬は、人々の健康と美の実現を願って、その達成手段を自然のいのちの中から引き出し、みなさまにお役立てします。

健康産業に貢献する中で、私達社員の人間性を高めていく努力はもとより、人々がより人間性の高い生活を営むことができる社会を築くため新しい価値のある事業を創造していく努力を継続します。

植物を中心とした「自然の恵み」をお客様にお届けするために社会課題解決に着目し、天然素材の入手から、医薬品・医薬部外品・化粧品・食品に利用するための技術開発を加えた素材研究開発を主軸に置き、お客様に喜んでご利用いただける製品開発を行っています。

### マテリアリティ

重要テーマ	重要課題	2050年あるべき姿・ありたい姿 (丸善製薬100周年:2049年)	2030年目標	対応する SDGs
美と健康への貢献	美と健康へ貢献する製品開発	自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな社会を支え、すべての人が笑顔であり続ける未来を実現します。	<p>■食品 人生100年時代到来に向け健康寿命延伸をキーワードに製品開発を実施します。製品の有効性や安全性といった機能面は勿論、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼頂けるモノづくりを実施します。</p> <p>■化粧品 エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される化粧品原料開発を行うと共に、お客様の価値創造を徹底的にサポートします。</p>	

### 製品研究・製品開発の5つのキーワード

丸善製薬は、お客様の声に耳を傾け、5つのキーワード(「植物」「美と健康」「抽出・精製・発酵技術」「安心・安全」「サステナビリティ」)に基づいて製品研究・製品開発を行っています。

新たな研究テーマ、新たな開発テーマはアイデア提案会から検討されることもあります。アイデアは丸善製薬「行動規範」に沿って、社会課題解決をテーマとして提案する仕組みになっています。

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 製品開発

役員・執行役員・顧問契約している大学教授に参加いただき、投票結果やアドバイスをもとに将来の自社製品テーマとして具体的な議論が進められます。

現代は、美に対する価値観の多様化、超高齢化社会により健康への関心が高まっています。これまで培ってきた研究開発力を結集し、自然の恵みのチカラを活かして、美と健康の課題解決に貢献してまいります。

### 【食品事業】

世の中の環境変化が激しくなる中、健康寿命延伸に求められるものは、「食の楽しさ」と「健康機能」であると考えています。自然の恵みを世界につなぎ、すこやかな食生活を通してすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、有効性や安全性といった機能面はもちろん、持続可能な原料調達も含めてお客様に信頼いただけるモノづくりに取り組んでいます。

### 【薬粧事業】

価値観が多様化していく中、私たち一人ひとりが「なりたい自分」と「なりたい肌」に向き合う必要があると考えています。植物に秘められた自然の恵みを世界につなぎ、化粧品を通じてすべての人が笑顔であり続ける未来を実現するために、エビデンスに基づいた実効感、そして安全性や持続性など様々な点で信頼される原料開発を行うと共にお客様の価値創造を徹底的にサポートしています。

### 研究成果発表

丸善製薬は、素材探索から製品研究・製品開発まで、社会課題の解決やお客様ニーズに対応するための分析技術・評価技術の研鑽・向上に取り組んでいます。

製品研究・製品開発のプロセスで得られた知見は、学会や論文誌などを通じて発表しています。



### 【皮膚バリア機能改善作用に関する発表】

「パインアップル由来グルコシルセラミド」の摂取により肌状態が悪い日本人女性の皮膚バリア機能を改善する作用があることを確認しました。この研究成果は第77回日本栄養・食糧学会大会で発表されました。

### 【ニキビ改善作用に関する発表】

「ユキノシタエキス」に抗炎症・保湿・ニキビ軽減・肌状態改善作用があることを確認しました。また二重盲検無作為化並行群間比較試験により「ニキビ改善作用を介して人々の心をポジティブに変化させる効果」が検証され、この研究成果はIFSCC2023バルセロナ大会／第1回日本化粧品技術者会学術大会で発表されました。

### 【抗肥満・脂肪肝改善に関する発表】

京都大学(木村教授)との共同研究により、「3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸(HMPA)」が短鎖脂肪酸受容体(GPR41)を活性化し、脂質代謝経路を刺激することで抗肥満効果および脂肪肝の改善につながることを確認しました。この研究成果は学術誌「Scientific Reports」に掲載されました。

### 【コレステロール減少効果に関する発表】

「米ぬか発酵物含有食品」にランダム化二重盲検プラセボ対照比較試験により総コレステロール、LDLコレステロール、非LDLコレステロールを減少させる効果があることを確認しました。この研究成果は学術誌「薬理と治療」に掲載されました。

### 【抗肥満作用に関する発表】

Hallym Universityとの共同研究により、「ブラックジンジャーエキス」に脂肪分化解阻害、脂肪酸合成阻害、脂肪分解促進の複数の経路を制御し、高脂肪食誘発性肥満を抑制する作用のあることを確認しました。この研究成果は学術誌「Food and Nutrition Research」に掲載されました。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 2) 製品開発

### 【膀胱機能障害予防効果に関する発表】

「黄杞葉エキス」が排尿障害によって起こる膀胱平滑筋の硬直化および膀胱内の圧力上昇を改善し、前立腺肥大症に起因する膀胱機能障害の予防に有効であることを確認しました。この研究成果は第23回日本抗加齢医学会総会で発表されました。

### 【エストロゲン機能上昇作用に関する発表】

「ユズ果皮エキス」にエストロゲン感受性の増強やエストロゲン応答タンパク質の誘導作用を通じて、皮膚においてエストロゲン機能を高める効果があることを確認しました。この研究成果は日本農芸化学会2024年度大会で発表されました。

### 製品開発と評価・表彰

丸善製薬は、これまで人々の美と健康の課題を解決するための多くの製品を開発してまいりました。

出品した製品が展示会やイベントなどで評価され表彰されています。

### 【和ism<sup>®</sup><ユキノシタ>】

「和ism<sup>®</sup><ユキノシタ>」は、年齢や性別を問わない多様な作用メカニズムに基づき、ニキビを防ぎ、気持ちを前向きに変化させる効果をヒト臨床試験で検証した「悩みによりそうニキビケア」を実現する機能性化粧品原料です。

世界的化粧品アワードである「BSB Innovation Award 2023」の最も革新的なアクティブ原料（ニキビ・毛穴ケア）部門において第1位を獲得しました。



### 【アクティボディ<sup>®</sup>顆粒c】

「アクティボディ<sup>®</sup>顆粒」が3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸 (HMPA) を機能性関与成分として「本品には3-(4-ヒドロキシ-3-メトキシフェニル)プロピオン酸 (HMPA)が含まれます。HMPAは、LDLコレステロールが高めの方のLDLコレステロールや総コレステロールを下げる機能が報告されています。」

の新しいヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理 (I1009) されました。

丸善製薬では初のPRISMA声明2020に準拠した届出による受理となりました。

### 【オリーブb】

「オリーブb」がオリーブ由来ヒドロキシチロソールを機能性関与成分として「本品にはオリーブ由来ヒドロキシチロソールが含まれます。オリーブ由来ヒドロキシチロソールは抗酸化作用により、血中のLDLコレステロールの酸化を抑制させることが報告されています。」のヘルスクレームで機能性表示食品として消費者庁に受理 (I1118) されました。

### 新商品

2023年度は1品の新製品を上市することができました。引き続き製品提供を通じて美と健康の課題解決に貢献してまいります。

### 【ロータスリフト<sup>®</sup>】

ロータスリフト<sup>®</sup>は、最新の老化研究をもとに、自然老化を逆戻り“リバース”させることに着目、強力なオートファジー誘導（自浄作用）を通じて、過去の老化負債を取り除き、自然老化細胞の機能低下回復が期待できる機能性化粧品原料です。

CITE JAPAN2023（第11回化粧品産業技術展）でシワやたるみ、乾燥などを予防・改善する化粧品原料として紹介しました。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 製品開発

### 薬事対応・法規制対応

薬粧商品は医薬品や化粧品の配合成分として用いられていますので、各国の関連法規制に従う必要があります。お客様に安心してご使用いただけるよう、必要な許認可の取得や配合可否の判断を行います。

また、自社商品の枠にとどまらず、各国の最新の法規制情報を入手、解析し、お客様や社内関連部署に提供しています。

2023年度は、中国化粧品新法規対応のための原料登録対応、資料作成対応を行いました。

### その他の活動

#### 【記念日の制定】

・ブラックジンジャーの日（毎年7月10日）

発売10年を迎えたブラックジンジャーの更なる発展と市場拡大を目的として毎年7月10日を「ブラックジンジャーの日」と制定し、一般社団法人日本記念日協会によってこの日が正式に「ブラックジンジャーの日」として登録されています。

7月10日は丸善製薬がブラックジンジャーの食薬区分を厚生労働省に照会し、2013年に食薬区分の非医薬品リスト収載が通知された日付となります。

2023年は、「ブラックジンジャーの日」を目前に控えた7月7日にブラックジンジャーの機能や、実際にブラックジンジャー配合のサプリメントを利用した健康チャレンジの様子をお伝えするオンラインセミナーを開催し、100社を超える多くの方々に参加いただきました。

今後も日本におけるブラックジンジャーのパイオニア企業として、ブラックジンジャーとその成分の研究を進め、皆様の健康に役立つ情報を発信してまいります。

#### 【学会／協会／研究会／NPO】

・学会

日本水産学会、日本栄養・食糧学会、日本香粧品学会、日本皮膚科学会、日本食品化学学会、日本血管生物医学会、和漢医薬学会、ファンクショナルフード学会、日本免疫学会 ほか

・協会

広島バイオテクノロジー推進協議会、広島県製薬協会、日本抗加齢協会、日本医薬品原薬工業会、日本植物園協会、日本植物防疫協会、日本食品添加物協会、日本ライセンス協会、福山地区危険物安全協会、ひろしま産業振興機構、三次法人会、広島県発明協会、広島北部地域職業能力開発協会（広島北部地域職業訓練センター）、三次郷心会、三次労働基準協会三次支部、備北地区危険物安全協会、近畿化粧品原料協会、日本化粧品工業会、日本化粧品技術者会西日本支部、ステビア工業会、日本栄養評議会（CRN JAPAN）、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、九州醤油醸造用品協会、西日本醤油醸造用品協会、東京都漬物事業共同組合、日本化粧品技術者会東日本支部、毛髪科学技術者協会、Personal Care Products Council（米国化粧品工業会：PCPC）、関西医薬品協会、東京化粧品工業会原料部会、日本ボイラ協会広島支部、日本健康・栄養食品協会、日本食品・バイオ知的財産権センター、日本知的財産協会、日本浴用剤工業会、日本医薬品添加剤協会、健康食品産業協議会、三次商工会議所、三次市雇用労働対策協議会、パクチーアカデミー協会 ほか

・研究会

柿渋・カキタンニン研究会、茶学術研究会、日本食品機械研究会、Tie2・リンパ・血管研究会、美容・アンチエイジング研究会、セラミド研究会、ノビレチン研究会、日本香辛料研究会、山梨県食品技術研究会、薬業健康食品研究会、腸内細菌をターゲットとした食品開発研究会 ほか

・NPO法人

食品治療学研究所、アーユルシード生活環境研究所

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 製品開発

### 【外部からの評価】

#### ・中国地方発明表彰(広島県知事賞)

ヒハツエキスの「Tie2活性化剤、血管の成熟化剤、血管の正常化剤、及び血管の安定化剤、並びにTie2活性化用飲食品(特許第6246859号)」が令和5年度中国地方発明表彰で広島県知事賞を受賞しました。

地方発明表彰は、明治37年に設立された発明協会の表彰事業の内、大正10年より開始した歴史ある表彰事業であり、実施されている優れた発明、考案又は意匠を生み出した技術者・研究開発者を顕彰するものです。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

### 3) 製品情報へのアクセス

丸善製薬は、製品情報へのアクセス手段として会員制HP「総合プロダクトガイド」を設けています。

「総合プロダクトガイド」では、化粧品原材料や食品原材料の製品パンフレット、技術資料、品質関連書類、最新ニュースなどを提供、「化粧品原料一覧」では、化粧品、医薬部外品の表示名称から、そして「食品原料一覧」では食品原料の素材名から各原材料が検索・確認でき、原材料情報へのアクセスを簡便化しています。

～総合プロダクトガイド～

丸善製薬株式会社総合プロダクトガイド：<https://www.maruzency.co.jp/productguide/>

商品開発にお役立ていただける様に「解説動画」では成分の有効性や特徴を動画でわかりやすく解説、そして「みんなの意識調査」では丸善製薬独自の視点で実施した消費者調査結果を公開しています。また「専門家VOICE」ページでは、健康や美容に関連する様々な専門分野で活躍されている有識者に丸善製薬がインタビューし、注目の学説や耳よりな情報を学びのコンテンツとして提供しています。

これら会員制HPでの情報掲載に加え、取引先向けメールマガジンで最新情報の配信、WEBセミナーを活用して商品開発にお役立ていただける商品情報の配信やコンセプトのご提案などWEBを活用した施策を行うと共に、化粧品・食品各

分野の展示会にも出展するなど、様々な手法で丸善製薬の製品情報をお届けしています。

～解説動画～

～みんなの意識調査～

トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

# 7. コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展

良き企業市民として、地域・社会とのコミュニケーションを積極的に図り、社会貢献に取り組めます。

トップメッセージ

企業理念

丸善製薬の  
サステナビリティ

組織統治

人権

労働慣行

環境

公正な  
企業活動

消費者課題

コミュニティへの  
参画及び発展

## 1) コミュニティへの参加

“Work locally. Think globally” (尾道から世界を考える)を実践する企業として、尾道から世界へ新たな価値をお届けし、地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。

### 主な協賛活動

【瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2022」】

<https://cycling-shimanami.jp/>

【おのみち住吉花火まつり(住吉神社例大祭)】

<https://onomichi-cci.or.jp/hanabi/>

【せとだレモンマラソン2024】

<https://lemon-marathon.jp/gaiyou/>

【2023西日本学生トライアスロン選手権尾道因島大会】

<https://jutu.jimdofree.com/>

尾道市の「スポーツ無限大おのみち」というスローガンに沿って、トライアスロン競技に打ち込む学生を支援する大会趣旨に賛同し、地元企業として協賛いたしました。

本大会への協賛を通じて、青少年の健全育成と、トライアスロンの普及と認知度向上に貢献してまいります。



### 従業員が参加する活動

【尾道みなと祭「ええじゃんSANSА・がり踊り」】

スマイル賞受賞:チーム「健・善・美」

[https://www.onomichi-matsuri.jp/port\\_festival/](https://www.onomichi-matsuri.jp/port_festival/)

### 災害・復興支援

丸善製薬では、大規模災害等により被害にあわれた地域の方々へ、義援金の寄付や商品の提供、社員のボランティア活動などの支援を行っています。

- ・広島県大雨災害義援金(2014年・日本赤十字社)
- ・熊本地震震災義援金(2016年・日本赤十字社)
- ・西國寺土砂災害復旧ボランティア(2016年・8名参加)
- ・西國寺災害復旧総合防災事業(2017年・西國寺)
- ・広島県豪雨災害義援金(2018年・日本赤十字社)
- ・能登半島地震災害義援金(2024年・日本赤十字社) ほか

### 清掃・ゴミ拾い活動

【事業所周辺の清掃】



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参加及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 1) コミュニティへの参加

### 出前授業

尾道市では“夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成”として「夢・志ナビゲーション」が行われています。尾道市立向島中学校様より研究に取り組む面白さや、仕事への想い、中学生に期待することなど、未来を担う子どもたちへのメッセージというお題を頂き、丸善製薬の研究者が出前授業を行いました。



#### 【夢・志ナビゲーションとは?】

尾道教育総合推進計画では“夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成”を政策の柱として、各学校段階に応じたキャリア教育を充実を目指して取組を進めています。尾道が世界に誇る企業の職業人を講師として招聘し、出前授業等を通して、『自己の生き方を考えていく』1つのきっかけにするための事業です。

### 向島地区緑化活動ボランティア

向東町メイン道路沿い緑化活動ボランティアの一環として向東地区公衆衛生推進協議会より久井ファームの肥土を提供いたしました。



### 尾道COOL CHOICEプロジェクトへの賛同

丸善製薬は、環境省が中心となって進めている地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に対して、尾道市が取り組みを推進している「尾道COOL CHOICEプロジェクト」に賛同、登録いたしました。CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の事業活動の中で貢献してまいります。

【尾道COOL CHOICEプロジェクト】

<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/15/32546.html>



### Jブルークレジット(尾道の海のゆりかご)の購入

尾道市は「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2022年から脱炭素に向けた取り組みの一環として、市沿岸地域に造成された干潟や藻場のCO2吸収減の拡大や環境学習を推進するプロジェクトを開始しています。

丸善製薬は、このプロジェクトに貢献するためブルーカーボン・オフセット推進事業「尾道の海のゆりかご(干潟・藻場)再生による里海づくり」によるJブルークレジットを購入いたしました。

第1回尾道市Jブルークレジット意見交換会、第1回アマモの種まき体験・セミナーin尾道へ参加し、意見交換とアマモ場再生セミナーの受講、アマモの種(約4千粒)の投入と干潟の海浜清掃を行いました。



トップメッセージ	企業理念	丸善製薬のサステナビリティ	組織統治	人権	労働慣行	環境	公正な企業活動	消費者課題	コミュニティへの参画及び発展
----------	------	---------------	------	----	------	----	---------	-------	----------------

## 2) 社会的投資

### 社会貢献活動等の表彰制度

丸善製薬では、従業員の社会貢献活動を推奨しています。従業員の各種団体からの表彰や永年にわたる社会貢献活動に対して表彰制度を設けています。2023年度は、該当者はありませんでした。

### 寄付

#### 【私募債（地域まちづくり貢献型）の発行】

広島銀行保証付私募債（地域まちづくり貢献型）を発行し、尾道市へ地域社会の貢献を目的とした寄付を行い、尾道市庁舎内のキッズスペースへ遊具が設置されました。



#### 【尾道健膳館<sup>®</sup>シリーズ（ドリンク）】

- ・尾道市子どもの居場所づくりネットワーク（通年寄付）
- ・2023西日本トライアスロン事前練習 ・尾道市立向東小学校（尾道みなと祭「ええじゃんSANSA・がり踊り」） ・広島県消防学校消防団県指導員訓練 ・尾道みなと祭「スタンプラリー」 ・三原CC「しまなみW杯」 ・尾道市ゴルフ協会向島支部 ・広島県スポーツ少年団軟式野球大会 ・西日本学生トライアスロン選手権大会 ・御袖天満宮 ・エンシェア ・尾道市内小 中学校 ・尾道商業高等学校 ・尾道学園 ・しまなみビーチフェス ・広島県高校野球連盟審判部 ・広島ユナイテッドFC ・江奥盆踊り大会 ・全国仮装大会inおのみち ・せとうちジャーニー ウォークin広島 ・向島まるごとフェスタ ・筋原ふれあいグランドゴルフ ・因島観光協会因島 ウォーク ・広島消防団小型ポンプ操法広島県大会 ・尾道うずしおカントリークラブ ・三次 市野球教室inきみた実行委員会 ・道の駅笠岡ベイファーム ・三成はらぺこレストラン（子ども 食堂） ・第41回向島駅伝大会 ・せとだレモンマラソン ・第8回せとだレモン祭 ・西日本一部軟式野球大会 ・玉の浦 春のゴルフ祭り